2003年度

講義計画

桃山学院大学

講　義　計　画

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
社会福祉援助技術現場実習Ⅰ	０１ ０２ ０３ ０４ ０５ ０６	通　期 通　期 通　期 通　期 通　期 通　期	２単位 ２単位 ２単位 ２単位 ２単位 ２単位	石田　易司 上野谷加代子 〈春〉郭　麗月〈秋〉安原佳子 北野　誠一 坪山　　孝 松端　克文

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
2　「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要となる資質・能力技術を習得する。
3　職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。
4　具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
5　関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

［講義計画］

1　実習オリエンテーション
2　視聴覚学習
3　社会福祉現場で働く社会福祉士からの講話
4　現場体験学習
5　見学実習
6　見学実習記録に基づくレポートの作成
7　全体総括

［成績評価の方法］

・出席重視
・レポート　　等で総合的評価

［参考文献］

［教科書］

授業時指定する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	０１ ０２ ０３ ０４ ０５ ０６ ０７ ０８ ０９ １０	通　期 通　期 通　期 通　期 通　期 通　期 通　期 通　期 通　期 通　期	２単位 ２単位 ２単位 ２単位 ２単位 ２単位 ２単位 ２単位 ２単位 ２単位	荒川　輝男 川東　光子 北野　誠一 阪野　　学 坂本　光哉 田中　信行 淡野　勝也 西浦　太一 松端　克文 山本　　晃

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
2　「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要となる資質・能力技術を習得する。
3　職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。
4　具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
5　関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

［講義計画］

1　配属実習オリエンテーション
2　専門援助技術実技指導
3　面接実技指導
4　記録実技指導
5　評価・効果測定実技指導
6　配属実習
7　実習記録に基づく実習の総括レポートの作成
8　レポートに基づく個別指導
9　全体総括会

［成績評価の方法］

全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。

［参考文献］

［教科書］

授業時指定する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉原論		秋学期集中	4単位	松　本　眞　一

［講義概要・学習目標］

1　現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式等を活用し理解させる。
2　社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解させる。
3　社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解させる。
4　社会福祉の専門性と倫理について理解させる。
5　社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容について理解させる。
6　社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解させる。
7　社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向について理解させる。

［講義計画］

1 現代社会と社会福祉
　1）社会福祉の理念（人権尊重、権利擁護、自立支援等）とその発達
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
2 社会福祉対象の把握方法
3 社会福祉援助の具体的な形態と方法
4 社会福祉援助活動における専門性と倫理
　1）専門性と専門職の内容
　2）職業観及び勤労観
　3）保健・医療等関連分野の専門職との連携のあり方
　4）社会福祉援助活動と倫理
5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容
6 社会福祉関係法制と実施体制及び財政の概要
　1）社会福祉事業法・福祉六法及び関連法規の内容及び相互関係
　2）社会福祉の実施体制
　3）社会福祉の財政と費用負担
　4）社会保障制度
7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向

［成績評価の方法］

秋学期集中につき、秋学期終了時点で定期試験を実施して成績評価を行う。また、出席点も加味される。

［教科書］

松本　眞一（編著）『現代社会福祉論』（ミネルヴァ書房　2001年改訂）

［参考文献］

福祉士養成講座編集委員会（編）
『社会福祉士養成講座　第1巻　社会福祉原論』（中央法規出版）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術論Ⅰ ※ 第2年次の「社会福祉援助技術論Ⅱ」の双方を履修して、「社会福祉援助技術論（8単位）」認定。		通　期	――	〈春〉山　野　則　子 〈秋〉石　田　易　司

［講義概要・学習目標］

この授業を2年間継続して履修し、以下の目標を達成する。
1．基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係形成を図るための方法について理解させる。
2．人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点を踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について、理解させる。
3．福祉専門職と専門援助技術の関係について理解させる。
4．社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則及び体系とそこにおける共通課題について理解させる。
5．社会福祉援助活動における専門技術の体系について理解させる。
6．社会福祉援助技術に由来する倫理について理解させる。

［講義計画］

1．社会福祉サービスと援助活動の関係
2．福祉専門職と専門援助技術の関係
3．専門援助技術の歴史的展開
4．社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題
　1）社会福祉援助活動の目的と価値
　2）社会福祉援助活動の原則（人権尊重・権利擁護・自立支援等を含む）
　3）社会福祉援助活動の展開過程
　　①援助開始時の面接（インテーク）と事前評価（アセスメント）
　　②援助計画の作成
　　③援助活動の実施
　　④援助活動の評価
　4）社会福祉援助活動の共通課題
　　①契約・介入・課題の意義と方法
　　②面接の意義と方法
　　③記録の意義と方法
　　④評価の意義と方法
　　⑤専門職相互による助言協力（スーパービジョン）の意義と方法
　　⑥個別事象の継続的援助（ケースマネジメント）の意義と方法
5．専門援助技術の体系及び内容
　1）直接援助技術
　　①個別援助技術（ケースワーク）
　　②集団援助技術（グループワーク）
　2）間接援助技術
　　①地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技法
　　イ　地域援助技術の概念と基本的性格
　　ロ　地域社会の組織化
　　ハ　地域援助技術
　　ニ　社会活動法
　　②社会福祉調査法の理論と技術
　　イ　社会福祉調査の基本的性格と類型
　　ロ　統計調査法における調査技術
　　ハ　事例調査における調査技術
　　③社会福祉の運営管理（ソーシャル・アドミニストレーション）と社会福祉計画の技術
　3）その他の関連専門援助技術（介護保険法における居宅サービス計画及び施設サービス計画を含む）
6．社会福祉援助活動の場と専門援助技術
7．専門援助技術と倫理
8．専門援助技術の統合化とチームにおける対応
9．専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向

［成績評価の方法］

出席状況、レポート、学期末試験等によって総合的に評価を行う。

［教科書］

〈春〉『社会福祉援助技術論（上）（下）』ミネルヴァ書房
〈秋〉キャンピング　フォー　オール（エルピス社）
　　さかさまの星座（オモドック）

［参考文献］

大塚達也他編著『ソーシャル・ケースワーク論　社会福祉実践の基礎』
ミネルヴァ書房

E.P.バイスティック著　尾崎新ほか訳『ケースワークの原則』（精神書房）

新しいグループワーク（YMCA同盟）
はじめて学ぶグループワーク（ミネルヴァ書房）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術論Ⅱ		通　期	8単位	玉置　好徳

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉援助技術論Ⅰでの体系的学習を基礎として、社会福祉援助技術の実際について学ぶ

2　個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術などのそれぞれについて学ぶとともに、それらの技術を地域で統合的に活用することについて学ぶ

3　その際には、なるべく具体的な事例を素材として、将来現場で活用できることを目指して学ぶ

4　伝統的な社会福祉援助技術ついて学ぶとともに、最新の技術についても先取的に学ぶ

［講義計画］

1　社会福祉援助技術の適用範囲と対象分野
2　個別援助技術の展開過程
3　集団援助技術の展開過程
4　地域援助技術の理論と技術
5　社会福祉調査法の理論と技術
6　社会福祉計画の理論と技術
7　社会福祉の運営管理
8　社会活動法の理論と技術
9　ケアマネジメントによる直接援助
10　記録とスーパービジョン
11　効果測定と評価
12　まとめと振り返り

［成績評価の方法］

期末課題の評価および平常成績

［教科書］

福祉士養成講座編集委員会（編）
新版・社会福祉士養成講座9『社会福祉援助技術論Ⅱ』
（中央法規）
¥2,500-（税別）

［参考文献］

井岡勉・成清美治（編）
『地域福祉概論』（学文社　2001年）
¥2,100-（税別）

（※　テキストを補完するために使用しますので、必ず購入すること。）

福祉 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
家族福祉論		通　期	4単位	中　村　永　司

［講義概要・学習目標］

現代社会における家族の特質や構造、機能を探り、現代家族の問題や動向を究明してその対応策を探る。
①講義の前半で現代家族のかかえる問題や特質を分析し、家族機能の変容を考察する。
②後半で家族メンバーの個有の問題を点検し、問題解決の方策や方法を考える。

［講義計画］

①家族福祉をとらえる視点
②現代家族の特質
③家族機能の変化
④現代家族の母子関係
⑤児童、障害者、高齢者問題とその対応策
⑥家族支援とソーシャルワーク
⑦ソーシャルワークマネジメント

［成績評価の方法］

期末に筆記試験を実施する。

［参考文献］

なし

［教科書］

なし

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
地域福祉論		春学期集中	４単位	上野谷 加代子

［講義概要・学習目標］

1　地域福祉の理念と内容について理解させる。
2　地域福祉計画の意義と内容、地域福祉の推進方法について理解させる。
3　地域福祉の現状について理解させる。

［成績評価の方法］

授業時の小テスト
学年末テスト、レポート等により総合的評価

［教科書］

『地域福祉論』（新・社会福祉学習双書　全国社会福祉協議会）

［講義計画］

1　現代社会におけるコミュニティと地域福祉
2　現代社会と地域福祉
　1）地域福祉理念の発達
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
3　地域福祉の構成
4　地域福祉の推進方法
　1）推進の基本的な考え方
　2）地域福祉計画の意義と内容
　3）市町村と社会福祉協議会の役割と住民参加の意義
　4）サービス提供組織とその運営方法
　5）人材の構成及びその動員方法
　6）財源の構成とその調達の方法
　7）地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職及びその連帯のあり方
5　地域福祉の現状

［参考文献］

『地域福祉論』（福祉士養成講座編集委員会 編集　中央法規）

他は授業時に提示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
医学一般		秋学期集中	４単位	郭　麗月

［講義概要・学習目標］

1　人体の基本的な構造や機能について理解させる。
2　臨床医学の各分野の概要について理解させる。
3　医学的リハビリテーションの概要について理解させる。
4　現代社会の代表的な疾患について理解させる。
5　公衆衛生の概要を理解させる。
6　保健医療対策の概要を理解させる。
7　医事法制と保健・医療機関及び専門職について理解させる。
8　社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

［成績評価の方法］

レポート、定期試験の成績で評価する。

［教科書］

福祉士養成講座編集委員会編
　社会福祉士養成講座１３「医学一般」（中央法規）

［講義計画］

1　人体の構造・機能
2　一般臨床医学（内科、外科、整形外科、神経・精神科等）の概要
3　医学的リハビリテーションの概要
4　現代社会と疾病
　1）がん、生活習慣病
　2）各種感染症
　3）神経・精神疾患
　4）先天性疾患
　5）難病
　6）その他
5　公衆衛生の現状
　1）人口動態
　2）疾病と受療状況
　3）医療関係者
　4）医療施設
6　保健医療対策の現状
7　医事法制と保健・医療機関及び専門職
　1）医療法、医師法、保健婦助産婦看護婦法等、医事法制の概要
　2）保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方

［参考文献］

適時紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
老人福祉論		春学期集中	4単位	坪　山　孝

［講義概要・学習目標］

1　老人の精神的・身体的特徴や障害について理解させるとともに、老人福祉の社会的背景について理解させる。
2　現代社会における老人福祉の理念と意義について理解させる。
3　老人の福祉需要の把握方法について理解させる。
4　老人福祉に関する法（介護保険法及び老人保健法等を含む）とサービスの体系について理解させる。
5　民間シルバーサービスの社会的意義とその現状について理解させる。
6　老人福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。
7　老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具について理解させる。
8　老人に対する相談援助活動について理解させる。

［成績評価の方法 ］

授業時に課すレポート及び試験によって成績評価を行う。

［教科書］

福祉士養成講座編集委員会編
『社会福祉士養成講座　第2巻　老人福祉論』（中央法規出版）

［参考文献］

『国民の福祉の動向』 他に随時、講義中に紹介する。

［講義計画］

1　高齢社会と老人
　1）老化と老人
　2）家族と老人
　3）社会と老人
2　現代社会と老人福祉
　1）老人福祉理念の発達
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
3　老人の福祉需要の把握方法とその具体的内容
　1）把握方法
　2）具体的内容
4　老人福祉に関する法の目的、対象及びサービス・給付の体系とその具体的内容
　1）老人福祉法
　2）介護保険法
　3）老人保健法及びその他の関連法規
5　老人に対する保健・医療・福祉サービスの現状
　1）在宅サービス
　2）施設サービス
6　民間シルバーサービスの役割と意義及びその現状
7　老人福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
　1）組織・専門職
　2）連携のあり方
8　老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具
　1）地域と住環境の整備（バリアフリーへの対応）
　2）福祉用具
9　老人に対する相談援助活動
　1）相談援助活動をすすめるうえでの留意点
　2）具体的事例

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
障害者福祉論		春学期集中	4単位	北　野　誠　一

［講義概要・学習目標］

1　現代社会における障害の理念と障害者の実態を理解させるとともに、障害者福祉の社会的背景について理解させる。
2　現代社会における障害者福祉の理念と意義について理解させる。
3　障害者の福祉需要の把握方法について理解させる。
4　障害者福祉に関するの法とサービスの体系について理解させる。
5　民間活動及び民間サービスの意味とその現状について理解させる。
6　障害者福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。
7　障害者に対する相談援助活動について理解させる。

［成績評価の方法 ］

毎回のレポート等

［教科書］

小澤、北野　編著『障害者福祉論』（ミネルヴァ書房）

［参考文献］

定藤、佐藤、北野　編著『現代の障害者福祉』（有斐閣）
佐藤、北野、三田　編著『障害者と地域生活』（中央法規）
定藤、北野　監修『アメリカの発達障害者権利擁護法』（明石書店）

［講義計画］

1　現代社会と障害及び障害者
　1）障害の概念
　2）家族と障害者
　3）社会と障害者
2　現代社会と障害者福祉
　1）障害者福祉理念の発達
　　①リハビリテーション
　　②ノーマライゼーション
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
3　障害者の福祉需要の把握方法とその具体的内容
　1）把握方法
　2）具体的内容
4　障害者福祉に関するの法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容
　1）障害者基本法とリハビリテーション体系
　2）障害別福祉サービスの体系と内容
　　①障害児
　　②身体障害者
　　③知的障害者
　　④精神障害者
　3）関連法による施策
　　①保健・医療
　　②教育
　　③雇用・就労
　　④年金、手当及び経済的負担の軽減
　　⑤住宅・生活環境（バリアフリーへの対応）
5　民間活動及び民間サービスの役割と意義及びその現状
　1）民間活動
　2）民間サービス
6　障害者福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
　1）組織・専門職
　2）連携のあり方
7　障害者に対する相談援助活動
　1）相談援助活動をすすめるうえでの留意点
　2）具体的事例

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
児童福祉論		秋学期集中	4単位	松　本　眞　一

［講義概要・学習目標］

1　現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解させるとともに、児童福祉の社会的背景について理解させる。
2　現代社会における児童福祉の理念と意義について理解させる。
3　児童の福祉需要の把握方法について理解させる。
4　児童福祉に関する法とサービスの体系について理解させる。
5　民間サービスの社会的意味とその現状について理解させる。
6　児童福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。
7　児童のための地域及び住環境整備と福祉用具について理解させる。
8　児童に対する相談援助活動について理解させる。

［成績評価の方法］

秋学期集中につき、秋学期終了時点で定期試験を実施して成績評価を行う。
また、出席点も加味される。

［教科書］

松本　眞一（著）『児童福祉論』相川書房（1995年刊、1999年改訂）

［参考文献］

福祉士養成講座編集委員会（編）
『社会福祉士養成講座　第4巻　児童福祉論』（中央法規出版）

［講義計画］

1　現代社会と児童
　1）人間の成長・発達と児童
　2）家族と児童
　3）社会と児童
2　現代社会と児童福祉
　1）児童福祉理念の発達
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
　4）児童の権利及び児童虐待
3　児童の福祉需要の把握方法とその具体的内容
　1）把握方法
　2）具体的内容
4　児童福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容
　1）児童福祉法
　2）母子及び寡婦福祉法
　3）母子保健法
　4）その他関連法規
5　児童に対する保健・医療・福祉サービスの現状
　1）在宅サービス
　2）施設サービス
6　民間サービスの役割と意義及びその現状
7　児童のための地域及び住環境の整備と福祉用具
　1）地域及び住環境の整備
　2）福祉用具
8　児童福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
　1）組織・専門職
　2）　連携のあり方
9　児童に対する相談援助活動
　1）相談援助活動をすすめるうえでの留意点
　2）具体的事例

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会保障論		通　期	4単位	里　見　賢　治

［講義概要・学習目標］

1　現代社会における社会保障の理念と意義について理解させる。
2　社会保障制度の体系について理解させる。
3　社会保障の各制度の概要について理解させる。
4　日本の年金保険について熟知させる。
5　日本の医療保険について熟知させる。
6　日本の民間保険の概要と公的施策との関係について理解させる。
7　社会保障の実施体制及び専門職について理解させる。

［成績評価の方法］

定期試験等で総合的に評価する。
前後期試験のいずれかを受験しなかった者は、単位認定できない。

［教科書］

レジュメを配布する。

教科書を使用するかどうかは検討中。

［講義計画］

1　現代社会と社会保障
　1）社会保障理念の発達
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
2　社会保障制度の体系
3　社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要
　1）年金保険
　2）医療保険
　3）介護保険
　4）労災保険
　5）失業保険（雇用保険）
　6）家族手当（児童手当）
　7）公的扶助
　8）その他関連制度
4　日本の年金保険制度とその具体的内容
　1）国民年金
　2）厚生年金
　3）各種共済組合の年金
5　日本の医療保険制度とその具体的内容
　1）国民健康保険
　2）健康保険
　3）各種共済組合の医療保険
6　公的施策と民間保険
　1）公的施策との関係
　2）現状
7　社会保障の実施体制及び専門職

［参考文献］

里見賢治　（著）『日本の社会保障をどう読むか』　（労働旬報社、1990年）
里見賢治、二木立、伊東敬文（共著）『公的介護保険に異議あり』
（ミネル　ヴァ書房、初版1996年、増補版1997年）
里見賢治ほか（共著）『福祉財政論』（ミネルヴァ書房、1989年）
一圓光弥（著）『自ら築く福祉』（大蔵省印刷局、1993年）

その他、適宜紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
公的扶助論		秋学期集中	４単位	瀧澤　仁唱

［講義概要・学習目標］

1　現代社会における公的扶助の理念と意義について理解させる。
2　生活保護制度のしくみと近年の動向について理解させる。
3　生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連帯のあり方について理解させる。

［講義計画］

1　現代社会と公的扶助
　1）公的扶助理念の発達
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
2　低所得対策の概要
3　生活保護制度のしくみ
　1）目的
　2）基本原理
　3）保護の原理
　4）保護の種類と内容
　5）保護の機関と実施体制及び財源
　6）保護施設の種類
　7）被保護者の権利及び義務
4　生活保護の最近の動向
5　生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連帯のあり方
　1）組織・専門職
　2）連帯のあり方

［成績評価の方法］

論述式筆記試験

［教科書］

法改正が多く、適当な教科書が間にあわないので、別途指示します。

［参考文献］

『社会福祉六法　2002（平成14）年版』（新日本法規）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
精神医学		通　期	４単位	岡　田　　章

［講義概要・学習目標］

1　精神医学、精神医療の歴史を理解させる。
2　脳および神経の生理・解剖の基礎を理解させる。
3　精神医学の概念について理解させる。
4　精神医学の診断の基本的な方法について理解させる。
5　代表的な精神障害について理解させる。
6　治療の概要について理解させる。
7　病院精神医学および地域精神医学について理解させる。

［成績評価の方法］

春学期　レポート
秋学期　テスト

［教科書］

『改訂　精神保健福祉士養成セミナー　　精神医学　』
（へるす出版）

［講義計画］

1 精神医学、精神医療の歴史
2 脳および神経の生理・解剖
3 精神医学の概念
　1）精神医学の概念
　2）精神障害の成因と分類
4 診断法
　1）診断の手順と方法
　2）精神症状と状態像
　3）心理検査と身体的検査
5 代表的な精神障害
　1）症状性を含む器質性精神障害（老人性痴呆を含む）
　2）精神作用物質使用による精神および行動の障害
　3）精神分裂病、分裂病型障害および妄想性障害
　4）気分（感情）障害
　5）神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
　6）生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
　7）成人の人格および行動の障害
　8）精神遅滞
　9）心理的発達の障害
　10）小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害
　11）神経系の疾患（てんかんを含む）
6 治療法
　1）身体的療法
　　①薬物療法とその副作用
　　②電気ショック療法
　2）精神療法
　3）環境・社会療法
　4）精神科リハビリテーション
7 病院精神医療および地域精神医療
　1）病院精神医療（身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む）
　2）精神科救急医療（インフォームドコンセントを含む）
　3）地域精神医療

［参考文献］

ＩＣＤ－10『精神および行動の障害』（医学書院）
ＤＳＭ－Ⅳ『精神疾患の分類と診断の手引き』（医学書院）
精神病　　笠原　嘉 著　岩波新書
現代　児童青年精神医学　山崎晃資ら編著　永井書店

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
精神保健学		春学期集中	4単位	郭　麗　月

［講義概要・学習目標］

1　精神保健についての基本知識について理解させる。
2　ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。
3　精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解させる。
4　地域精神保健と地域保健について理解させる。
5　諸外国における精神保健の概要について理解させる。
6　関連法規および施設について理解させる。

［成績評価の方法］

レポート、定期試験

［教科書］

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編
精神保健福祉士養成セミナー　第2巻　『精神保健学』　（へるす出版）

［講義計画］

1 精神保健についての基本知識
　1）精神保健の概要
　2）精神保健の意義と課題
2 ライフサイクルにおける精神保健
　1）胎児期および乳幼児期における精神保健
　2）学童期における精神保健
　3）思春期における精神保健
　4）青年期における精神保健
　5）成人期における精神保健
　6）老年期における精神保健
3 精神保健における個別課題への取り組み
　1）精神障害者対策
　2）老人性痴呆疾患対策
　3）アルコール関連問題対策
　4）薬物乱用防止対策
　5）思春期精神保健対策
　6）地域精神保健対策
　7）ターミナルケアと精神保健
4 精神保健活動の実際
　1）家庭における精神保健
　2）学校における精神保健
　3）職場における精神保健
　4）地域における精神保健
5 地域精神保健と地域保健
　1）地域精神保健施策の概要
　2）地域保健施策の概要
　3）関係法規
　4）関連施策
6 諸外国における精神保健

［参考文献］

適時紹介する。

福祉 02～

《インテグレーション科目》

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
精神科リハビリテーション学		秋学期集中	4単位	栄　セツコ

［講義概要・学習目標］

1　精神科リハビリテーションの概念について理解させる。
2　精神科リハビリテーションの構成について理解させる。
3　精神科リハビリテーションのプロセスと技術について理解させる。
4　精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解させる。
5　精神科リハビリテーションにおける連携について理解させる。

［成績評価の方法］

毎時、主席状況、レポート等で総合的に評価する。

［教科書］

特になし

［参考文献］

［講義計画］

1 精神科リハビリテーションの概念
　1）リハビリテーションの概念と歴史
　2）リハビリテーションの理念、意義と基本原則
　3）精神科リハビリテーションの概念
　4）精神科リハビリテーションの理念と意義
　5）精神科リハビリテーションの基本原則と技法
　6）わが国及び諸外国の精神科リハビリテーションの現状
2 精神科リハビリテーションの構成
　1）精神科リハビリテーションの対象
　2）精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
　3）精神科リハビリテーションに関わる専門職等との連携
　4）精神科リハビリテーションの施設
　　①病院リハビリテーション施設等
　　②社会復帰施設及びその他の社会資源（小規模作業所、グループホーム、地域生活支援事業など）
　　③精神保健福祉センター及び保健所
　　④その他の協力機関、支援団体
　5）精神科リハビリテーションの関連領域
3 精神科リハビリテーションのプロセス
　1）リハビリテーション計画
　2）アプローチの方法
　　①病院におけるリハビリテーション
　　②社会復帰施設及びその他の社会資源におけるリハビリテーション
　　③地域におけるリハビリテーション
　3）疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション
4 医療機関におけるリハビリテーション
　1）作業療法およびレクリエーション療法
　2）集団精神療法
　3）行動療法
　4）認知行動療法（生活技能訓練を含む）
　5）家族教育プログラム
　6）デイケアおよびナイトケア
　7）精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導
5 精神保健福祉士が行うリハビリテーション
　1）精神保健福祉士が関わる医学的リハビリテーション
　　①集団精神療法における精神保健福祉士
　　②生活技能訓練における精神保健福祉士
　　③デイケアおよびナイトケアにおける精神保健福祉士
　　④訪問看護・指導における精神保健福祉士
　2）社会的リハビリテーション
　　①日常生活への適応のための訓練
　　②社会復帰のための相談・助言・指導
6 精神科リハビリテーションの総合化
　1）地域リハビリテーション
　　①地域ネットワーク
　　②ケアマネジメント
　　③地域生活支援事業と訪問援助
　　④家族会および自助グループ
　　⑤ボランティアの育成と活用
　2）職業リハビリテーション
　3）精神保健福祉施策と精神科リハビリテーション

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
精神保健福祉論		春学期集中	4単位	栄　セツコ

［講義概要・学習目標］

1 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。
2 精神障害者の人権について理解させる。
3 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。
4 精神障害者に対する相談援助活動等を理解させる。
5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解させる。
6 精神保健福祉施策の概要について理解させる。
7 精神保健福祉の関連施策について理解させる。

［成績評価の方法］

出席日数、レポート等で理解度を評価する。
必要に応じ筆記試験を行い、総合的に評価する。

［教科書］

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会（編）
『精神保健福祉論』　（へるす出版）

［参考文献］

成清美治、加納光子（編）『精神保健福祉概論』（学文社）

［講義計画］

1 障害者福祉の理念と意義
1）障害者福祉の理念
①障害者福祉の発達
②ノーマライゼーション
③リハビリテーション
④生活の質（QOL）
⑤生活支援
2）障害及び障害者
①障害の概念
②障害分類（国際障害分類を含む）
③精神障害の特性
3）障害者福祉の基本施策
①障害者基本法
②障害者プラン
4）現代社会と精神障害者
①精神障害者の概念
②精神障害者と家族
③精神障害者と地域社会
④精神障害者のノーマライゼーション
2 精神障害者の人権
1）精神障害者の権利擁護
2）精神医療における権利擁護
3）インフォームドコンセント
4）地域社会における精神障害者の人権
3 精神保健福祉士の理念と意義
1）精神保健福祉の歴史と理念
2）精神保健福祉士の意義
3）精神保健福祉士の対象
4）精神保健福祉士の専門性と倫理
4 精神障害者に対する相談援助活動
1）精神障害者を取りまく社会的障壁（バリアー）
2）精神障害者の主体性の尊重
3）相談援助活動の方法
①医療施設における相談援助活動
②社会復帰施設等における相談援助活動
③地域社会における相談援助活動
4）相談援助活動の事例
5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律
1）精神保健福祉法の意義と内容
2）精神保健福祉士法の意義と内容
3）関連法について
6 精神保健福祉施策の概要
1）精神保健福祉に関する行政組織
2）精神保健福祉に係る公的負担制度（公費負担医療等）
3）精神保健福祉施策の課題
①精神障害者福祉対策
②社会復帰対策
4）精神保健福祉における社会資源
①精神障害者保健福祉に関わる専門職との連携
②社会資源
7 精神保健福祉の関連施策
1）雇用・就業（障害者雇用促進法等の概要を含む）
2）所得保障
3）経済負担の軽減
4）生活環境の改善

福祉 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
精神保健福祉援助技術各論		通　期	4単位	重　野　勉

［講義概要・学習目標］

1 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）について具体的事例に基づき理解させる。
2 精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）について具体的事例に基づき理解させる。
3 精神障害者ケアマネジメントについて具体的事例に基づき理解させる。
4 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）について具体的事例に基づき理解させる。
5 精神障害者を対象とした援助技術について具体的事例に基づき理解させる。

［成績評価の方法］

レポート提出

［教科書］

精神保健福祉士養成セミナー（第6巻）
『精神保健福祉援助技術各論』（へるす出版）

［参考文献］

［講義計画］

1 精神障害者を対象とした個別援助技術（ケースワーク）
1）疾病及び障害に配慮した個別援助技術
2）個別援助技術の実際と適用分野
3）個別援助技術におけるスーパービジョン
4）具体的事例検討
2 精神障害者を対象とした集団援助技術（グループワーク）
1）疾病及び障害に配慮した集団援助技術
2）集団援助技術の実際と適用分野（生活技能訓練を含む）
3）集団援助技術におけるスーパービジョン
4）具体的事例検討
3 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティーワーク）
1）地域援助技術の概念と基本的性格
2）地域援助技術の具体的展開
①ノーマライゼーションの推進と住民参加
②社会資源の活用と開発
③地域社会における連携と調整機能
④家族会、自助グループの支援
⑤ボランティア等地域マンパワーの育成と活用
⑥地域援助
3）具体的事例検討
4 精神障害者のケアマネジメント
1）ケアマネジメントの原則
①ケアマネジメント
②適用と対象
③人権への配慮
2）ケアマネジメントの意義と留意点
①ケアマネジメントの意義と留意点
②関係機関との連携
3）ケアマネジメントのプロセス
①受理面接（インテーク）
②ニーズの把握とその評価
③目標設定と計画的実施
④包括的サービスの実現
4）チームケアとチームワーク
5）具体的事例検討
5 精神障害者援助と関連専門職種との連携
1）チーム医療における精神保健福祉士の役割
2）専門職等の役割と機能
3）チームアプローチ及び生活支援の理念と精神保健福祉士の役割
4）協力・連携による包括的保健・医療・福祉サービス

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
精神保健福祉援助技術総論		通　期	4 単位	辻　井　誠　人

[講義概要・学習目標]

○精神障害者に対する社会福祉施策とその具体的展開場面である援助活動を体系的に理解する。
○精神障害者への社会福祉援助活動を展開する専門職（価値及び倫理、専門技術、専門知識）について理解する。
○精神保健福祉士が専門技術を用いる具体的事例を取り上げ、理論的に検証する。

[講義計画]

1 精神障害者とその生活の困難性について
2 精神障害者への社会福祉援助活動を展開する専門職
　価値及び倫理
　専門技術の体系
　専門知識
3 精神保健福祉士と専門技術の展開過程
　各展開過程における原則
　具体的実践例による検証

[成績評価の方法]

期末試験の成績を中心に評価する。レポートの提出を求めた場合はその評価も含める。出席や授業態度などは期末試験に加算する場合がある。

[教科書]

住友雄資・長崎和則・金子努・辻井誠人編『精神保健福祉実践ハンドブック』
２００２年４月　日総研出版

[参考文献]

仲村優一監修『ソーシャルワーク倫理ハンドブック』１９９９年中央法規出版
岡村正幸、川田誉音編『個別援助の方法論』１９９８年株式会社みらい
北島・副田・高橋・渡部編『ソーシャルワーク実践の基礎理論』２００２年　有斐閣
その他講義で随時紹介

福祉 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国際社会福祉論		秋学期	2単位	伊藤高章

[講義概要・学習目標]

国際社会が直面する福祉の課題を理解すると共に、日本の状況を諸国との関係の中で考える。更に、福祉の専門職がどのように国際社会に貢献できるかを検討する。
インターネットを活用し、国連関係機関および諸外国のデータを教材とする。
基本的な英語の読解力および Webページ検索の技術を身につけていることが要求される。

[講義計画]

Webページ提示可能な教室を利用し、データを参照しながら講義を行う。学生はグループに分かれ、特定の福祉領域（貧困、児童、高齢者、失業、ホームレス、医療、保険、難民など）の国際比較、もしくは一つの国の福祉状況を共同研究し、クラスに向けて報告する。

[成績評価の方法]

グループごとの研究報告を中心に評価する。
学期を通してのクラスへの貢献度を重視する。

[教科書]

なし

[参考文献]

矢野恒太郎記念会（編）『世界国勢図会』、国勢社
（2003/04年版、2003年8月刊行予定）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
ボランティア論		秋学期	2単位	大野順子

[講義概要・学習目標]

持続可能な市民社会の形成を目標に、様々なフィールドで展開しているボランティア活動を検証していきながら、参加型体験学習やグループディスカッション等を混ぜながら、地球市民としての自覚を持たせる。毎回、地域で開催されるボランティア活動や、関連イベント、セミナーの情報も発信する。

[講義計画]

全14回(予定)

第一回 ボランティア論入門
第二回 世界を知ろう「もし世界が100人の村だったら」ワークショップ(予定)
第三回 貿易ゲーム(新)・I
第四回 貿易ゲーム(新)・II
第五回 NPO/NGO論
第六回 連携(企業・行政)
第七回 データでみる日本のボランティア・I
第八回 データでみる日本のボランティア・II
第九回 国内NPO活動検証・I
第十回 国内NPO活動検証・II
第十一回 事例発表会
第十二回 ボランティア・コーディネーターについて
第十三回 まとめ
※第十四回 予備日

[成績評価の方法]

出席及びレポートによって評価。

[参考文献]

授業時に適時紹介。

[教科書]

特に指定しない。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会福祉行財政論		秋学期	2単位	八田和子

[講義概要・学習目標]

1. 「ニード」「サービス」「再分配」等の福祉政策における基礎概念、さらに「普遍性・選別性」「公正・平等」「効率性」等、福祉政策における判断基準をめぐる諸説を取り上げ、社会福祉行財政システムをめぐる理論問題への理解を深める。
2. 社会福祉の組織、専門職、福祉サービス利用システム等、社会福祉財政等、社会福祉行財政システムの基礎構造を学び、その特徴を把握する。
3. 近年の福祉政策において重要なトピックを取り上げ、社会福祉行財政システム分析の具体的な切り口を学ぶ。主として介護保険および社会福祉基礎構造改革等を扱う。
4. 受講者の自主学習を促進し、必要に応じて自ら社会福祉行財政に関する資料・文献の収集・整理を行えるよう、その方法について適宜触れる。

[講義計画]

1. 導入
2. 市場の失敗と福祉政策
3. 福祉政策と「ニード」
4. 行政活動の根拠と政策実施の手段
5. 福祉の組織と専門職
6. 社会福祉サービス利用システム
7. 社会福祉の財政
8. 社会福祉行財政をめぐる諸問題

[成績評価の方法]

平常点（出席、小レポート）および試験

[教科書]

無し（講義でレジュメ・資料を配布する）

[参考文献]

講義の中で適宜提示するが、さしあたり以下の文献を参照のこと。

- 坂田周一『社会福祉政策』有斐閣アルマ、2000年
- 武川正吾『福祉社会―社会政策とその考え方』有斐閣アルマ、2001年
- 三重野卓・平岡公一編『福祉政策の理論と実際―福祉社会学研究入門』東信堂、2000年
- 大山博・武川正吾編『社会政策と社会行政―新たな福祉の理論の展開をめざして―』法律文化社、1991年

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
医療保健福祉論		8月集中	4単位	田中　千枝子

［講義概要・学習目標］

「医療保健福祉」の理論的枠組みを示し、保健・医療・福祉各領域の共通性や相違性を明確にする。福祉の専門性や独自性に関する考え方を学び、保健医療福祉の連携と統合という課題を、福祉の視点で追求する。そのために歴史的・社会的・文化的等各アプローチによって、福祉の価値を専門的核とする取り組み姿勢を身につける。

さらに健康障害を抱えた生活者としての人間とその環境に対する理解を深めるための知識や技術を体系的な体験的学習を中心に学ぶ。さらに問題解決のための具体的な社会保障制度やサービス供給システム、社会資源の成り立ちや手続き・問題点等もそれらの手法をもって学ぶ。加えて激動する現代の保健医療福祉状況の中で、保健医療福祉の組織や専門職チーム、地域関係機関の内外の連携の在り方について検討し、今後の方向性を見定める。

［講義計画］

1回　医療保健福祉の概念整理　医療保健領域の環境　医療と福祉の相補性
　　福祉の価値と視点　ビデオ鑑賞　レポート作成
2回　保健医療の歴史とＳＷの展開　各国のＳＷの比較　患者とｸﾗｲｴﾝﾄ
　　保健医療ＳＷの実際　ロールプレイ　レポート作成
3回　保健医療と福祉を巡る価値と倫理　保健医療組織とチームワーク
　　保健医療ＳＷの実際　ロールプレイ　レポート作成
4回　医療保健福祉と社会保障　サービス供給システム
　　保健医療ＳＷの実際　ロールプレイ　レポート作成
5回　健康障害と生活障害　疾患学から障害生活学へ
　　保健医療ＳＷの実際　ロールプレイ　レポート作成
6回　保健医療福祉と社会福祉的課題　人権と社会正義
　　保健医療ＳＷの実際　ロールプレイ　レポート作成

［成績評価の方法］

集中講義の各日の最終時間に課題レポートの作成　6回×15％＝90％
授業への参加度　10％
出欠席・遅刻・早退につき減点あり

［教科書］

医療福祉概論　田中千枝子著　日本エジュケーションセンター
（現在校正中　出版　平成15年３月予定）

［参考文献］

・保健医療ソーシャルワーク原論　日本医療社会事業協会編　相川書房
・保健医療ソーシャルワーク・ハンドブック　保健医療ＳＷ研究会　中央法規
・保健医療の専門ソーシャルワーク　保健医療の専門ＳＷ研究会　中央法規
・新医療ソーシャルワーカー論　児島美都子著　ミネルヴァ書房
・ソーシャルワークの業務マニュアル　杉本照子監修　川島書店
・エイズとソーシャルワーク　小西加保留編集代表　中央法規
・退院計画病院と地域を結ぶ新しいシステム　手島陸久編集代表　中央法規
・医療ソーシャルワーク実践50例　大本和子・田中千枝子・大谷昭・笹岡真弓　川島書店

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉施設経営論（旧　社会福祉施設運営論）		秋学期	2単位	坪　山　孝

［講義概要・学習目標］

今日の社会福祉施策はノーマリゼーション及び在宅生活の継続性などを目標にしている。これが社会福祉施設に地域化や多機能化の課題を与え、その経営に大きく影響している。

しかし現在でも施設の重要な役割は利用者に対するサービスにある。施設を利用する個人及び家族の自立を支える社会的装置という視点から施設の有用性を考え、経営主体の形態やサービス・人事・財務などの諸管理について講義し、総合的に施設の経営管理を学習する契機としたい。

また、高齢者の施設は介護保険制度に移行し、利用者本位のサービス提供を目標に自己選択・苦情対応・第３者評価などの新しい仕組みを導入する責任があるので、これらについても考える。

［講義計画］

1　社会福祉施設の沿革
2　社会福祉施設の体系と制度
3　社会福祉施設の経営と社会福祉法人制度
4　利用者のニーズとサービス管理（食事・入浴・排泄・移動介助等）
5　社会福祉施設と組織・人事管理
6　社会福祉施設と地域社会（地域化の課題）
7　社会福祉施設と従事者
8　社会福祉施設の建物、設備　（複数居室・ユニットケア）
9　社会福祉施設と介護保険制度
　（苦情解決・第３者評価・身体拘束・リスクマネジメント等）

［成績評価の方法］

学期末試験による

［教科書］

用いない

［参考文献］

随時、授業中に紹介する

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉計画論		8･1月集中	4単位	松原　一郎

［講義概要・学習目標］

社会福祉施策を具体的・合理的に進めていくための方法として社会福祉計画がある。それは、社会変動や公的セクターの働きや政策と不可分の関係にある。

社会福祉計画の基礎概念や類型を学びながら、個別分野の計画 ── 介護保険、障害者プラン、エンゼルプラン・地域福祉計画 ── についても学生諸君の発表にあわせて論及していく。

［講義計画］

レクチャーとディスカッションで２コマを形成する。

前半　①社会変動と社会福祉制度
　　②社会福祉計画とは何か：基礎概念、構成要素
　　③公的計画と民間計画

後半　④計画の個別具体的事例：高齢者、障害者、児童、地域福祉等
　　⑤まとめ：ニーズ、計画と参画、評価

［成績評価の方法］

平常試験による。（レポート・発表を含む）

［教科書］

事務室にて資料のパッケージを配布

［参考文献］

『社会福祉計画』 定藤・坂田・小林共編、有斐閣、1996
『厚生労働白書』当該年度版

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
リハビリテーション論		秋学期	2 単位	奥　田　邦　晴

［講義概要・学習目標］

障害者が豊かな生活を営んでいく上で、リハビリテーションから自立生活への円滑な連携が非常に重要である。そのためには、リハビリテーションは、適切な時期に実施されまた、必要最小限に時間を限定したものでなくてはならない。ノーマライゼーション社会の構築を目標に、このリハビリテーションを包括的な視点からとらえ、保健-医療-福祉の一体化を押し進めていくことを目標とする。

なお、リハビリテーション論を学ぶ上で障害についての理解を深めることは非常に重要である。代表的な疾患を取り上げ、それぞれの障害やリハビリテーションアプローチについて解説する。

［講義計画］

1.リハビリテーション総論
2.障害と評価（脊髄損傷、脳卒中、脳性麻痺その他）
3.各種専門職種
4.疾患・病態からみたリハビリテーションの実際
5.補装具
6.リハビリテーション工学
7.障害者のスポーツ
8.地域ケア
9.その他

［成績評価の方法］

筆 記 試 験

［教科書］

特 に 定 め な い

［参考文献］

「入門リハビリテーション概論」 中村隆一　医歯薬出版株式会社
「リハビリテーション論」 福祉士養成講座編集委員会　中央法規
「リハビリテーションの理論と実際」 上田 敏 ミネルヴァ書房
「リハビリテーションを考える」　上田 敏 障害者問題双書
「リハビリテーション概論」　砂原茂一　医歯薬出版株式会社

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
人間発達論（旧人格発達論）		春学期集中	4単位	岡　井　哲　明

［講義概要・学習目標］

世の中の変化や世相を賑わす事件も多い。多くの人が先の夢を語らなくなりつつあることは、そのまま、何を基にして考え生きていけばよいのかの悩みが深く潜行しているようにも思える。確かに表面は気楽に考えているようだが、真剣に向かい合うことを避けているとも言え、心の奥底の悩みと表面の行動との開きは大きい。場合によっては、他人には気づかれないほど軽めに見える場合もある。

本講義では、パーソナリティー理論の中でも、無意識の概念を導入し人間を総体として捉える実践的な経験から生まれた「精神分析療法」を中心にして、主要な各理論を紹介し、深みのある人格の発達を概観する。

必要に応じて事例を交え人間の心に対する理解を深め、悩める人への援助についても触れたい。受講者自身が今まで以上に自分について、また、人に対する関心を増し、今後の子育てや将来就くであろう対人援助の仕事に役立てる契機となれば良いと考えている。

［講義計画］

1) 序論～性格とは何か
各種性格理論の紹介とその視点の整理

2) 心の深層構造～精神分析の基礎理論
フロイドの精神分析理論から～自我の働き、深層心理学的な力動
ｃｆ.ユングの分析心理学

3) 乳幼児のこころの世界～乳幼児研究・乳幼児精神分析
児童分析（アンナフロイド・メラニー・クライン）から対象関係論
(D.W. ウィニコット）まで

4) ライフサイクルから見た心理社会的発達について（E.H. エリクソン）
自我同一性、グランドプラン、ライフサイクル

［成績評価の方法］

学年末試験（論述）の成績を最終的な評価とする。
その他レポート有。

［教科書］

特に指定はしない。

［参考文献］

随時, 講義の中で参考図書については紹介する。

福祉 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉施設サービス論　（旧　社会福祉施設処遇論）		春学期集中	4単位	松端　克文

［講義概要・学習目標］

本講は社会福祉施設でのサービス論（支援論）である。今日わが国の社会福祉従事者は 100 万人を超えているが、そのほとんどが福祉施設の従事者である。本学の卒業生の就職先も大半が社会福祉施設である。

しかし、社会福祉施設での援助論、あるいはサービス論として体系化された理論や方法はほとんどない。社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の理論や方法は学んでも、そのことが施設での実践にそのままで活かせるわけではない。そこで本講では、社会福祉施設をソーシャルワークを統合的に実践する場として積極的に位置づけることができるよう試みたい。

そのためには、エンパワーメントの観点を重視した個々の利用者と向き合うなかで求められる個別援助技術の観点からの専門性と、地域での自立生活を支援するうえで、地域と向き合うなかで求められる「コミュニティソーシャルワーク」の観点からの専門性とを、実践のなかで統合していかなければならない。こうした観点から施設サービス論の構築に努めたい。

なお、本稿では児童、高齢、障害といった分野を超えた観点からのアプローチを前提とはするが、実践レベルにおける「脱施設化」という課題を扱う場合など、特に障害者施設に焦点をあてる場合もある。

［講義計画］

前期
1．社会福祉改革の動向と社会福祉施設
2．社会福祉施設の歴史
3．社会福祉施設の制度体系
4．社会福祉施設サービス・運営の現状把握

後期
5．社会福祉施設のサービス評価
6．社会福祉施設におけるソーシャルワーク実践―個別援助技術の観点から―
7．社会福祉施設における地域生活支援―コミュニティソーシャルワークの観点から―
8．社会福祉施設における苦情解決の仕組み、オンブズマンの活動

［成績評価の方法］

出席、レポート、学年末試験による

［教科書］

教科書使用しない
適宜プリント配布

［参考文献］

授業時に紹介する

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
介護概論	０１	春学期	２単位	但　馬　直　子

［講義概要・学習目標］

1　介護の役割と範囲を理解させるとともに、看護・医療及び家政との関係について理解させる。
2　具体的な介護の展開過程や介護の実際について演習形式等を活用し理解させる。
3　身体的及び精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に速やかに正しく対処できる能力を養い、保健・医療機関、専門職との連携、協力及び必要に応じたその手助けをすることができるようにする。
4　病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それらに対する予防措置を講ずることができるようにする。

［成績評価の方法］

出席状況とレポートの内容を勘案し総合的に評価する。

［教科書］

『新版社会福祉士養成講座１４　介護概論』（中央法規）

［参考文献］

『ケアマネジメントのための福祉用具アセスメント・マニュアル』
市川洌（編）（中央法規）
『痴呆の人々のケアが活きる場所グループホーム』
中島紀恵子（編著）（日本看護協会出版会）
『日常生活に援助を必要とする人の在宅ケア』
奥宮暁子・後閑容子（編著）

［講義計画］

1　介護の目標、機能及び範囲
　1）介護の原則、目標、機能及び範囲
　2）自立的な生活維持に対する需要と介護の役割
　3）成人期以降、老人・障害者の生活上の需要と介護の役割
　4）健康維持のメカニズム
　5）終末期の介護
　6）介護過程の展開
2　介護技法（安全、快適、安寧、健康水準の低下予防等）の基本
　1）住生活環境の安全管理（感染防止）
　2）食事
　3）排泄
　4）衣服の着脱
　5）入浴・身体の清潔と感染防止
　6）移動空間の確保
　7）健康習慣の獲得
　8）体力の維持（運動と機能維持）
　9）自己達成と社会生活の維持（レクリエーションと学習等）
　10）療養時の対応
　11）緊急・事故等の対応
　12）介護家族への生活維持援助
　13）福祉用具の活用
3　介護関係維持のための技法
　1）健康や生活の観察技法
　2）コミュニケーションの技法
　3）記録と情報の共有化の技法
　4）介護専門職（介護福祉士）と医師・看護婦・保健婦等医療専門職との連携のあり方
　5）介護専門職とその他の福祉専門職（社会福祉士）との連携のあり方
4　介護活動の場に特有な問題と技法
　1）家庭
　2）施設

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
介護概論	０２	春 学 期	２単位	山　本　明　美

［講義概要・学習目標］

1　介護の役割と範囲を理解させるとともに、看護・医療及び家政との関係について理解させる。
2　具体的な介護の展開過程や介護の実際について演習形式等を活用し理解させる。
3　身体的及び精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に速やかに正しく対処できる能力を養い、保健・医療機関、専門職との連携、協力及び必要に応じたその手助けをすることができるようにする。
4　病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それらに対する予防措置を講ずることができるようにする。

［成績評価の方法］

出席状況とレポートの内容を勘案し総合的に評価する。

［教科書］

『新版社会福祉士養成講座１４　介護概論』（中央法規）

［参考文献］

『ケアマネジメントのための福祉用具アセスメント・マニュアル』
市川洌（編）（中央法規）
『痴呆の人々のケアが活きる場所グループホーム』
中島紀恵子（編著）（日本看護協会出版会）
『日常生活に援助を必要とする人の在宅ケア』
奥宮暁子・後閑容子（編著）

［講義計画］

1　介護の目標、機能及び範囲
　1）介護の原則、目標、機能及び範囲
　2）自立的な生活維持に対する需要と介護の役割
　3）成人期以降、老人・障害者の生活上の需要と介護の役割
　4）健康維持のメカニズム
　5）終末期の介護
　6）介護過程の展開
2　介護技法（安全、快適、安寧、健康水準の低下予防等）の基本
　1）住生活環境の安全管理（感染防止）
　2）食事
　3）排泄
　4）衣服の着脱
　5）入浴・身体の清潔と感染防止
　6）移動空間の確保
　7）健康習慣の獲得
　8）体力の維持（運動と機能維持）
　9）自己達成と社会生活の維持（レクリエーションと学習等）
　10）療養時の対応
　11）緊急・事故等の対応
　12）介護家族への生活維持援助
　13）福祉用具の活用
3　介護関係維持のための技法
　1）健康や生活の観察技法
　2）コミュニケーションの技法
　3）記録と情報の共有化の技法
　4）介護専門職（介護福祉士）と医師・看護婦・保健婦等医療専門職との連携のあり方
　5）介護専門職とその他の福祉専門職（社会福祉士）との連携のあり方
4　介護活動の場に特有な問題と技法
　1）家庭
　2）施設

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
臨床心理学		通　期	4 単位	川　口　茂　雄

[講義概要・学習目標]

今日、「もの」が豊かになるにつれて、「こころ」の重要性がしだいに認識されるようになっている。このような時代にあって、臨床心理学は、医療、福祉、教育、司法、産業、地域社会などの各臨床現場で、「こころ」の問題や葛藤で悩み苦しんでいる人々を、心理学的な知識や技法を用いて援助してゆく、極めて実践的な学問である。

本講座では、先ず臨床心理学発展の歴史を振り返りながら、その独自性、特色を明らかにした上、基礎的な人格理論や対象となる各発達段階での課題と病理を学習させる。次に、心理臨床の実践現場での人格理解の方法（面接、各種心理検査）及び心理療法の幾つかの技法について、時間を割いて習得させる。講義の中で、事例紹介、時事的問題の説明、心理テストの実施、ビデオの試聴などをとおして、「実践の学」である臨床心理学の理解を深めさせる。

[講義計画]

1　臨床心理学とは何か
2　臨床心理学の歴史
3　精神力動理論の基礎
4　パーソナリティの発達と病理
　(1)　各発達段階の課題
　(2)　適応障害と精神病理
5　臨床心理学的アセスメント
　(1)　面接と行動観察
　(2)　心理検査法
6　心理療法
　(1)　来談者中心療法
　(2)　行動療法
7　臨床心理学の課題

[成績評価の方法]

レポート提出及び期末試験の成績等によって総合的に評価する。

[教科書]

特に指定しない。

[参考文献]

森谷寛之編「はじめての臨床心理学」北樹出版
弘中正美他編「子どもの心理臨床」北樹出版
村尾泰弘著「家族臨床心理学の基礎」北樹出版

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
レクリエーションワーク（旧レクリエーションワーク）		秋学期集中	4 単位	横　見　靖　子

[講義概要・学習目標]

キャンプや福祉施設でのレクリエーション活動援助を素材に、高齢者、障害者、児童などの福祉対象者へのレクリエーション活動援助の理論と技術を身につける。

施設等の福祉現場に出た時、役立つ人材になれるように、教室内では、受身の授業で終わらず、自発的に自ら考え、体で覚える授業を目指す。学外授業にも積極的に参加してほしい。

[講義計画]

① 福祉におけるレクリエーションの現状と課題
② 福祉レクリエーションの法体系と行政施策
③ 福祉レクリエーションの歴史
④ 福祉レクリエーション活動援助の考え方（個人・集団・社会へのアプローチ）
⑤ 福祉レクリエーション活動援助のプロセス
⑥ 援助者に必要なカウンセリング・コミュニケーション技法
⑦ レクリエーション財のアレンジ
⑧ レクリエーションとセラピー
⑨ レクリエーション活動を安全に行うために
⑩ キャンプ実習

[成績評価の方法]

出席点とノートとレポート

[教科書]

「高齢者のレクリエーション指導Ⅱ　デイセンターのプログラム」
（朝日新聞厚生文化事業団）
「新しい高齢者レクリエーション」（大阪YMCA）
「アイスブレーク」（エルピス社）

[参考文献]

「福祉レクリエーション総論」（中央法規）
「レクリエーションの基礎理論」（杏林書院）
「いきいき高齢者キャンプ」（朱鷺書房）
「痴呆性老人キャンプ」（朱鷺書房）
「高齢者レクリエーション指導の手引き」（朝日新聞厚生文化事業団）
「CAMPING　FOR　ALL」（エルピス社）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
野外レクリエーション実習		春学期	2単位	石田　易司

［講義概要・学習目標］

日本レクリエーション協会のレクリエーションインストラクター資格、日本キャンプ協会のキャンプインストラクター資格を取得し、福祉現場でキャンプやスキー、海洋活動などの野外活動の指導者として活動できるように、基本的な技術や理論を学ぶ。

また、障害者や高齢者など福祉対象者とともに活動することによって、対象者を理解し、野外での援助技術を学ぶ。

それらの活動を通して、自分自身の野外レクリエーションへの態度を養い、生涯のライフスタイルを考える。

［講義計画］

キャンプの歴史
キャンプの特性
キャンプ指導の技術
キャンプ指導の理論
キャンプマネジメント
障害者・高齢者の理解
リスクマネジメント
プログラムの企画
キャンプ場のユニバーサルデザイン
障害者キャンプの実際
高齢者キャンプの実際
病虚弱児キャンプの実際
海洋活動の実際
幼児キャンプの実際

［成績評価の方法］

出席とキャンプインストラクター、レクリエーションインストラクター資格要件の充足、体験報告レポート

［教科書］

キャンピング　フォー　オール(エルピス社)

［参考文献］

ザ・キャンプ(創元社)　松田稔
松田稔のキャンプの世界（エルピス社)石田易司・畠中彬
森のユニバーサルデザイン（日本林業調査会）太田猛彦
痴呆性老人とキャンプ（朱鷺書房)石田易司

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
障害者スポーツ論		春学期集中	4単位	長谷川　修一郎

［講義概要・学習目標］

ストーク・マンデビル病院国立脊椎損傷センターの所長ルドイッヒ・グットマン博士は1948年にはグッドマン博士の指導で、両下肢マヒ者のための競技会が開かれた。このスポーツ大会が、ストーク・マンデビル競技として一般に知られるようになった。1952年には国際的な両下肢マヒ者スポーツ競技会として発展した。この競技会は、1960年に開催されたローマ・オリンピック大会の開催を機会にオリンピック終了に続いて、同じ会場でパラリンピック大会として開催された。次は1964年東京オリンピック終了の後に第13回パラリンピックを開催した。これまで日本の身体障害者には、スポーツ文化を享受する機会がなく体を動かす楽しみ・健康・体力を獲得するということがなかった。その後、全国身体障害者スポーツ大会が国民体育大会終了後、ストーク・マンデビル競技流に行われている。

また、障害者スポーツ競技団体は、日本聾唖者スポーツ協会、日本身体障害者スキー協会、日本車椅子バスケットボール連盟等、合計36競技団体があり、準登録団体は日本脳性麻痺７人制サッカー協会、日本障害者ダーツ連盟等が活動している。今後、多用なスポーツが出て来るであろう。

障害者スポーツの国際組織①1978年国際脳性麻痺者スポーツ・レクリエーション協会加盟３６カ国(日本加盟)②国際盲人スポーツ協会、加盟７６カ国(日本加盟)他、発展するであろう。

［講義計画］

第1章日本における身体障害者スポーツの歴史
1、各都道府県等に身体障害者スポーツ大会の開催状況　2、パラリンピック東京大会
3、全国身体障害者スポーツ大会の推移　4、国内種目別競技団体　5、国際競技大会参加
第2章国際障害者スポーツ団体
1、障害者スポーツの国際組織　2、最近における身体障害者スポーツ国際組織
第3章国内における情勢
1、ジャパン・パラリンピック大会の開催　2、全国身体障害者スポーツ大会
3、その他の大会　4、身体障害者スポーツの国際化への対応
5、重度身体障害者のスポーツレクリェーションへの参加
第4章身体障害者スポーツ各種競技大会の概要
1、国際競技大会の一覧　2、国内競技大会の一覧　3、パラリンピック競技の概要
4、冬季パラリンピック競技の概要 5、フェスピック競技の概要
6、全国身体障害者スポーツ大会　7、ジャパン・パラリンピック
8、車椅子バスケットボール選手権大会　9、全国身体障害者アーチェリー選手権大会
10、全国身体障害者スキー大会　11、全日本視覚障害者柔道大会
12、国際ストーク・マンデビル競技大会　13、大分国際車いすマラソン大会

［成績評価の方法］

各章毎に小テストをおこない、最終授業時にテストをおこなう。

［教科書］

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
福祉事情研究		通　期	4 単位	中　村　永　司

[講義概要・学習目標]

現代社会における社会福祉のトピックスを扱う。
①前半で最近の社会福祉の理念や構造をさぐり、特に問題となっている虐待に焦点をあてて実態にせる。
②後半では社会福祉サービスの全体像を明らかにし、福祉の課題をさぐる。

[講義計画]

①最近の社会福祉の理念の動向
②ドメスティックバイオレンスの実態
　イ、児童虐待
　ロ、高齢者虐待
　ハ、婦人虐待
③ドメスティックバイオレンスの対応策
④在宅福祉サービスの最近の課題
　―保健・医療・福祉の連携―
⑤介護保険、成年後見制度の課題

[成績評価の方法]

期末に筆記試験を実施する

[参考文献]

なし

[教科書]

なし

《インテグレーション科目》

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
社会福祉特講（新しい福祉課題）		秋学期	2単位	坪　山　孝

[講義概要・学習目標]

本特講は読売新聞社によって提供される。
２０００年には介護保険制度が始まり、社会福祉法が成立した。そして、２００３年から支援費制度が開始され、わが国の社会福祉基礎構造は大きく変化する。この制度変革の意義は今後の検証に待たねばならないが、豊かな社会といわれるなかで、今日までの福祉問題に加えて、児童や高齢者に対する虐待、介護事故、無年金者やホームレス等の新しい福祉課題が拡大している。
本特講では読売新聞社の現場記者（社会部・生活情報部・科学部他に所属する）が綿密に取材した事象を切り口にして社会保障、社会福祉を分析し、現在の社会が抱える前述した新しい福祉課題について講義する。
主なキーワードは「年金・医療・福祉・児童・女性・貧困」等の社会福祉の各領域にわたるが、これらを多角的にわかりやすく講義し、豊かな社会の新しい福祉課題の特質を明らかにする。
将来、社会福祉分野の仕事に就こうとする学生諸君が「社会の現実」から社会福祉を研究する契機となることを目的として提供されるので、期待して受講してほしい。

[講義計画]

1　年金
2　健康・医療
3　児童の問題（虐待・不登校などの子育て）
4　高齢者の問題（虐待・介護・財産管理など）
5　女性の問題
6　貧困問題

なお、講義計画については、講義初日により詳細な内容を提示する。

[成績評価の方法]

レポートと学期末試験による

[参考文献]

随時、授業中に紹介する

[教科書]

用いない

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
商業簿記 （旧簿記Ⅰ）	０１	秋学期集中	４単位	近　藤　健　司

［講義概要・学習目標］

企業は、複式簿記の原理を使って、日々の取引を記録・計算・整理し、その結果作成される財務諸表を通して、自らの財政状態と経営成績を把握するとともに、債権者・株主・税務当局などの利害関係者に必要な会計情報を伝達する。

本講義では、初めて簿記を学習する学生を対象として、初級の商業簿記を講義する。

簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要なため、毎時間、練習問題を解く学習を中心に、つとめて実践的に授業を進めたい。学生諸君も受身にならず、積極的に授業に参加してほしい。

［講義計画］

1　複式簿記の計算原理・・資産・負債・資本と貸借対照表、費用・収益と損益計算書、財産計算と損益計算の統合
2　複式簿記の計算構造・・取引・勘定・仕訳、仕訳帳・元帳、試算表、決算、
3　勘定科目各論・・現金・預金，仕入・売上、売掛金・買掛金、受取手形・支払手形、その他の勘定、
4　決算・・決算整理、８桁精算表、損益計算書、貸借対照表
5　帳簿組織・・伝票式会計

［成績評価の方法］

定期考査の成績に出席状況、提出物等を加味して、総合的に評価する。

［教科書］

中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋（共著）「現代簿記論」　（中央経済社）
新井清光・渡部裕亘（編著）「新検定簿記ワークブック３級」（中央経済社）

［参考文献］

新井清光・渡部裕亘（編著）「新検定簿記講義３級（平成１５年版）」
（中央経済社）

経営 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
商業簿記（旧簿記Ⅰ）	０２	秋学期集中	４単位	清水　信匡

［講義概要］

初めて簿記・会計を学ぶ学生を対象として複式簿記に基づいた商業簿記の記帳手続きを説明することが本講義の主内容である。その過程で簿記・会計が現代の社会でどのような役立ちを担っているのかも説明する。さらに、会計学にはどのような領域があり、どのようなことが問題になっているかも説明する。なお、随時記帳練習を行う。

［学習目標］

①複式簿記の基礎概念の理解
（資産・負債・資本・収益・費用・利益概念の理解）

②複式簿記の基本的記帳方法の理解

③複式簿記の理解を通じて会計学のイメージをつかむ

［講義計画］

1　複式簿記の基礎概念　2　貸借対照表　3　損益計算書
4　仕訳　5　転記　6　試算表　7　６桁精算表
8　決算　9　複式簿記の役立ち

10　現金・預金　11，12，13　三分法　14　有価証券
15　貸倒償却　16 原価償却　17，18 手形
19，20　８桁精算表　21，22　決算本手続き

［成績評価の方法］

試験等で評価する。

［教科書］

加古・穐山監修『段階式　日商簿記ワークブック　3級商業簿記』
税理経理協会2002年

生協にて一括して購入し販売する。

［参考文献］
中田・徐・堀・全著『現代簿記論』中央経済社。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
商業簿記（旧簿記Ⅰ）	０３ ０７ ０８	春学期集中 春学期集中 春学期集中	４単位 ４単位 ４単位	河野　勉

［講義概要・学習目標］

簿記とは帳簿記入のことをさすが、単にそれのみにとどまらず、個人・法人とも１年間の経営活動の結果として決算書（貸借対照表、損益計算書）を作成しなければならない（商法第３２条、商法第２８１条）。

その決算書は、利害関係者（経営者 、従業員、債権者、株主、国等）が活用する有用な情報である。今日、企業にとって、ディスクロージャー（情報公開並びに透明性）＆アカウンタビリテイの必要性が最重要視されている。
決算書は、複式簿記という極めて技術的手法によって誘導される。この原理を学ぶことによって、企業活動の計数的結果である利益の算定方法並びにバランス思考（人生における）を養うことを学習目標とする。

企業経営にとって、会計の知識は必要不可欠なものであるとされるが、簿記を学習することにより、その会計の考え方をより理解することが容易となる。実務との係わりを交えながら講義していく。
更に、電子商取引時代を迎えて、電子帳簿保存法が施行されている今日のペーパーレス化と帳簿との関連についても言及したい。

［講義計画］

<前半>
１．複式簿記の原理･･･(1)簿記の意義と目的
(2)簿記の要素（資産・負債・資本・費用・収益）
(3)簿記の仕組み(取引・勘定・勘定記入法・貸借平均の原理・勘定科目)
２．仕訳帳と元帳･･･ (1)仕訳と仕訳帳　(2)転記と元帳
３．試算表･････････ (1)試算表の意味と種類　(2)試算表の貸借合計不一致
４．決算（その１）･･ (1)決算の意味と手続　(2)帳簿決算(英米式・大陸式)

<後半>
５．取引の記帳･･････(1)現金・預金取引(2)商品売買取引（仕入帳・売上帳商品有高帳・商品売買益の計算）(3)信用取引(4)手形取引（手形の種類・手形の裏書と割引・不渡手形）(5)有価証券取引(6)固定資産取引(7)個人企業の資本取引
６．決算（その２）･･･(1)決算整理の意味(2) 棚卸表(3)棚卸減耗損と商品評価損(4)貸倒引当損と貸倒引当金(5)有価証券評価損(6)減価償却(7)費用・収益の繰延べと見越し(8)精算表

［成績評価の方法］
簿記は計算技術的側面が強いため、適宜計算問題のホームワークを課し、テストを実施し、総合的に評価する。尚、日本商工会議所の簿記検定３級に合格した場合は、成績評価に加算する。

［教科書］

中田信正・徐　竜　達・堀　友章・全　在紋（共著）
「現代簿記論」（中央経済社）

［参考文献］

新検定簿記講義３級商業簿記
加古　宜士
渡部　祐亘 編著　　中央経済社

新検定簿記ワークブック３級商業簿記
加古　宜士
渡部　祐亘 編著　　中央経済社

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
商業簿記 （旧簿記Ⅰ）	０４ ０５ ０６	春学期集中 春学期集中 春学期集中	４単位 ４単位 ４単位	近　藤　健　司

［講義概要・学習目標］

企業は、複式簿記の原理を使って、日々の取引を記録・計算・整理し、その結果作成される財務諸表を通して、自らの財政状態と経営成績を把握するとともに、債権者・株主・税務当局などの利害関係者に必要な会計情報を伝達する。
本講義では、初めて簿記を学習する学生を対象として、初級の商業簿記を講義する。
簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要なため、毎時間、練習問題を解く学習を中心に、つとめて実践的に授業を進めたい。学生諸君も受身にならず、積極的に授業に参加してほしい。

［講義計画］

1　複式簿記の計算原理・・資産・負債・資本と貸借対照表、費用・収益と損益計算書、財産計算と損益計算の統合
2　複式簿記の計算構造・・取引・勘定・仕訳、仕訳帳・元帳、試算表、決算、
3　勘定科目各論・・現金・預金. 仕入・売上、売掛金・買掛金、受取手形・支払手形、その他の勘定、
4　決算・・決算整理、８桁精算表、損益計算書、貸借対照表
5　帳簿組織・・伝票式会計

［成績評価の方法］

定期考査の成績に出席状況、提出物等を加味して、総合的に評価する。

［教科書］

中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋（共著）「現代簿記論」　（中央経済社）
新井清光・渡部裕亘（編著）「新検定簿記ワークブック３級」（中央経済社）

［参考文献］

新井清光・渡部裕亘（編著）「新検定簿記講義３級（平成１５年版）」
（中央経済社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
商業簿記（旧簿記Ⅰ）	０９ １０	春学期集中 春学期集中	４単位 ４単位	全在紋（チョン ジェ ムン）

［講義概要・学習目標］

リトルトンという会計学者は、「会計」を「企業の言語」とたとえた。日本人が日本語で話し、アメリカ人が英語で話すように、「企業人」は会計で話しをすると見たのである。この伝で言えば、「簿記」は企業の言語（会計）の「文法」だと言えよう。英語の文法が面白くないように、簿記の学習もまた、学生諸君にはとかく敬遠されがちである。しかし、将来企業人として指導的立場に立たねばならない経営学部卒業生には、簿記の習熟は避けて通れない関所といってよい。

〈学習目標〉

複式簿記の計算原理・計算構造について理解する。

①財務諸表を構成する勘定諸科目の会計的意義を理解する。
②複式簿記システムでの会計的取引の記帳方法を習得する。
③決算手続きを理解し、損益計算書・貸借対照表の作り方を学ぶ。

［講義計画］

① オリエンテーション（2回）
② 複式簿記の計算原理（3回）
③ 複式簿記の計算構造（4回）
④ 複式簿記の記帳練習（3回）
⑤ 中間試験および解説（2回）
⑥ 現金・当座預金の処理（2回）
⑦ 売上・仕入の処理（2回）
⑧ 繰越商品・売上原価の算定（2回）
⑨ その他の勘定の処理（1回）
⑩ 決算整理事項の処理（2回）
⑪ 精算表・財務諸表の作成（2回）

［成績評価の方法］

授業の出席状況、課題（宿題）の達成状況、および筆記試験（中間試験・学期末試験各１回）の総合点で評価する。なお、日本商工会議所簿記検定試験３級以上の合格者には、別途加点評価する。

［教科書］

中田信正・徐 龍 達・堀　友章・全 在 紋（共著）
『現代簿記論』　中央経済社

［参考文献］

井上達雄・新井清光（共著）
『検定簿記ワークブック（３級・商業簿記）』　中央経済社

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
大学生活入門セミナー	０１	春学期	２単位	野　原　康　弘

［講義概要・学習目標］

「大学に入ったけれど、講義で先生の言うことがわからない。教科書を読んでもわからない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」

このようなことがないように、大学生活入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には，大学の施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強するための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達の輪を作ることを目的とします。特に、「読む」，「書く」，「聞く」，「話す」の４つの基礎的スキルを向上させながら，大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

<学習目標>

1　講義におけるノートの取り方を学ぶ
2　レジュメの作り方を学ぶ
3　発表・報告・討論の仕方を学ぶ

＊全回出席を原則とする。

［講義計画］

この講義は留学生のためのものです。

この講義では、『潰れない会社にするための 12 講義』を教科書にして、留学生の苦手とする「読む」ことの訓練をしながら

読んで簡単にまとめる
簡単なレポートに仕上げる
それを発表する
発表について討論する
討論後、完全なレポートに仕上げ、提出する
教科書にあるビジネス関係の用語を調べる（毎回）
それらを発表する
ミニ講義を行いノートのとり方を学ぶ
研究の仕方を学ぶ

［成績評価の方法］

10 回以上の出席、レポートの提出とその内容、報告発表、授業中の態度

［教科書］

『潰れない会社にするための 12 講義』　吉岡憲章　　中公新書

［参考文献］

適宜指示する

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
大学生活入門セミナー	０２～２０	春学期	２単位	クラス・担当者については、目次で確認してください。

［ 講義概要・学習目標 ］

「大学に入ったけれど、講義で先生の言うことがわからない。教科書を読んでもわからない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」

このようなことがないように、大学生活入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には，大学の施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強するための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達の輪を作ることを目的とします。特に、「読む」，「書く」，「聞く」，「話す」の４つの基礎的スキルを向上させながら，大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

＜学習目標＞

1　講義におけるノートの取り方を学ぶ
2　レジュメの作り方を学ぶ
3　発表・報告・討論の仕方を学ぶ

＊全回出席を原則とする。

［ 講義計画 ］（第１回でさらに詳しい説明があります。）

第１回　講義の概略説明と自己紹介
第２回　図書館　オリエンテーション
第３回　情報センター　オリエンテーション
第４回　ノートの作り方（ミニ講義）(1)
第５回　ノートの作り方（ミニ講義）(2)
第６回　ノートの作り方（ミニ講義）(3)
第７回　大学生活及び入門セミナーについての意見交換
第８回　報告の仕方（文献講読と発表）(1)
第９回　報告の仕方（文献講読と発表）(2)
第10回　討論(1)
第11回　討論(2)
第12回　本講義の反省会とカリキュラムの説明

＊講義順序を入れ替える場合があります。

［ 成績評価の方法 ］

レポート等の提出とその内容、授業中の態度等

［ 教科書 ］

適宜指示する

［ 参考文献 ］

適宜指示する

経営 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学基礎	０１	春学期	２単位	片　岡　信　之
	０２	春学期	２単位	片　岡　信　之
	０３	秋学期	２単位	鈴　木　幾多郎
	０４	秋学期	２単位	鈴　木　幾多郎

［講義概要・学習目標］

経営学では、どのような内容を学ぶのでしょうか。履修要項にはさまざまな経営学関連の科目が並んでいます。しかし、それぞれの科目がどのような学習内容を含んでいるのか、初めての人にはなかなかわかりづらい事が多いと思われます。
そこでこの講義では、経営学部で開設している諸科目のうち経営学・商学関係科目の主な内容を、かいつまんで易しく解説し、それぞれの科目について大まかなイメージが持てるようにします。それとともに、経営学部でどのような勉強をしていけば将来どのような職業に就くのに有利になるのか、また、ある特定の職業に就くためにはどのような科目をとって系統的に勉強していけばよいか、という点についても、ガイドします。
この講義を履修し終わった人が、1年後期（第2セメスター）から自覚を持って、みずからの判断で積極的なキャリア形成（将来めざす仕事に向けた能力・経歴形成）に進んでいけるように学習方向をサポートするのが、この講義の主な目標です。

［講義計画］

配付資料に従って、概ねその順に講義を進めます。講義には必ず出て、よく注意して聴き、ノートをとる癖をつけてください。

1. 経営学、商学とはどんな学問か―全体的見取り図（経営学総論、経営学史、経営史、商学の主内容）
2. 会社の仕組みはどのようになっているのかについての知識を学ぶ―企業論
3. 会社を運営するにあたって知っておかねばならない知識を学ぶ―経営管理論
4. ヒトをどのように雇い・使うか、会社と従業員がともにハッピーになるにはどのようにしたらよいかについての知識を学ぶ―経営労務論
5. 会社ではどのようにしてモノを作っているかについての知識を学ぶ―生産管理論
6. 商品流通の仕組みと販売に関する一切の知識を学ぶ―流通論、マーケティング論
7. お金をどう集め・運用するかについての知識を学ぶ―経営財務論
8. 金融制度・保険制度・証券市場の仕組みと銀行業・保険業・証券業についての知識を学ぶ―銀行論、保険論、証券論
9. 国際化時代の会社はどう変わってきているかについての知識を学ぶ―国際経営論、異文化間コミュニケーション論
10. 中小企業の直面する問題と起業家についての知識を学ぶ―中小企業論
11. 組織の個性・品性・文化と社会的責任のあり方についての知識を学ぶ―組織倫理学
12. 大学院レベルの高度な授業に挑戦しよう―環太平洋圏経営研究、日本経営論研究
13. 現代版の読み・書き・そろばんの武器を身につけよう―実務英語、情報諸科目、情報収集能力、リーダーシップ能力、戦略作成能力
14. 就職対策・キャリア形成は入学時から始まっている―経営学部卒が有利な職業の紹介、学科目履修との関係づけ、就職課職員の話を聴く
15. 自分のライフプランと今後の学習計画を立ててみよう

［成績評価の方法］

①期末テストの結果によるほか、
②講義ノートチェック（出席してしっかりノートを取っているかどうかを、期末にノート提出によってチェックします）、
③講義中に随時指示する提出レポートがきちんと書けているかどうか、
などによる総合評価とします。
概ね期末テスト結果5割、その他5割の比重で評価をします。

［教科書］

最初の時間にテキストを配付します。

［参考文献］

●特に指定はしませんが、ポーダブルな（携帯できる小さな）経営学関係の辞典をいつも手元に持っていることを奨めます。授業の時に必要に応じてひいてみるほか、常日頃から隙間時間を利用して、どの言葉からでも手当たり次第に読んで下さい。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営情報基礎	０１ ０２ ０３ ０４	春学期 春学期 秋学期 秋学期	２単位 ２単位 ２単位 ２単位	牧　野　丹奈子 牧　野　丹奈子 深　谷　清　之 深　谷　清　之

［講義概要・学習目標］

経営学部における経営情報関連の講義は，以下の４つである。
・"情報技術"について学習する「経営情報技術論」
・"情報システム"について学習する「経営情報システム論」
・"情報化と組織"について学習する「情報化組織論」
・"情報利用と計画"について学習する「経営工学」

この講義は，上の４つの講義のイントロダクションとして位置づけられる。それぞれの基礎的内容を学習する。また，上記の内容に加え、４つの講義を理解するために最低限必要な数学の基礎も学習する。
この講義の目的は，経営管理や組織運営にとって、情報、コンピュータ・システム、ＩＴ（情報技術）、モデル化の技術が不可欠であることを認識してもらい、より広くは、さまざまな意思決定の局面において、論理的思考、ないしはシステム思考が、大きな助けとなることを理解してもらうことである。

［講義計画］

①オリエンテーション
②数学基礎
③「経営情報技術論」の基礎
④「経営情報システム論」の基礎
⑤「情報化組織論」の基礎
⑥「経営工学」の基礎
⑦まとめ

［成績評価の方法］

期末試験

［教科書］

プリント配付

［参考文献］

必要に応じて指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
会計学基礎	０１ ０２ ０３ ０４	春学期 春学期 秋学期 秋学期	２単位 ２単位 ２単位 ２単位	小　林　哲　夫 小　林　哲　夫 清　水　信　匡 清　水　信　匡

［講義概要・学習目標］

〈講義概要〉
「会計」(accounting)は「企業の言語」(language of business)と言われる。日本人なら日本語で話をし、アメリカ人なら英語で話をするように、「企業人」(business person)は〈会計〉で話をしているというわけである。英語も知らないで、アメリカ社会で高い報酬は期待できない。同じように、会計を知らずして、経済社会での成功(出世)もおぼつかない。本講義は、企業の言語の基本的な会話法を伝授する。

〈学習目標〉
企業の言語の基本的な会話力を身につけるため、以下を学習目標とする。
①資産・負債・資本・利益・資金など、財務諸概念の意味を理解する。
②企業から提供される財務情報に込められた、数字の意味を読み取る。
③企業により提供される財務情報について、その実践的な利用法を学ぶ。
④経営学部専門科目の履修に際し、必須の基礎知識を修得する。

［講義計画］

テキストの目次は次の通りであるが、進行状況を勘案して講義する。

第１章　会計とは？
第２章　基本的な会計情報とは？
第３章　決算書の情報を分析するには？
第４章　税金はどのように計算するのか？
第５章　コストと会計情報とはどのように結びつくのか？
第６章　経営管理に会計情報をどう役立てるのか？
第７章　財務諸表は本当か？
第８章　決算書の内容や様式はどのように決まるのか？
第９章　会計は職業とどう結びつくのか？

［成績評価の方法］

授業の出席状況、課題(宿題)の達成状況、および筆記試験の総合点で評価する。

［教科書］

中田信正・徐龍達・小林哲夫（共編著）
『 まなびの 入門会計学 』（中央経済社）

［参考文献］

参考資料は適宜配布します。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
文献演習	01	通期	4単位	李（イ） 健泳（コンヨン）

[演習概要・学習目標]

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この演習の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

[演習計画]

＜前期＞

仮想企業を作ってみることによって経営の仕組みを学ぶ。
グループ別に作ってみたい業種の企業を選び、設立登記までの必要書類を作成するとともに採算計画を起案してみることによって企業経営の仕組みを学ぶ。

＜後期＞

論理的な話し方と明瞭なレポートの書き方とは何かを議論しその構造を学ぶ。
全員が授業に参加できるように、グループ分けを行ない、グループ間のディベートを通じて、論理的な話し方を習得する。さらに、読み手にとって分かりやすいレポートの書き上げ方をレポートの構造分析を通じて学ぶ。

[成績評価の方法]

出席率、ディベートへの参加度、発表の準備などを総合勘案して評価。

[教科書]

講義開始のときに指示する

[参考文献]

バーバラ・ミント著/山崎康司訳、「考える技術・書く技術」、ダイヤモンド社、2800円
小野田博一著、「論理的に話す方法」、日本実業出版社、1300円
長門昇著、「会社の作り方」、日本実業出版社、1400円

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
文献演習	02 03	通期 通期	4単位 4単位	河合　隆治

[演習概要・学習目標]

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この演習の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

[演習計画]

本講義では会計が会社でどのように利用されているかについて、勉強していきたいと思います。さらに会計と直接関わらない人に会計を理解してもらう必要があるかについて考えていきます。これらによって、新しく会計を学ぼうと思っているみなさんが、なぜ会計を勉強する必要があるかについて理解できると思います。
本講義では毎週受講者の中から、担当者２、３人を選び、グループで１章の半分ほどの内容について発表してもらいます。この発表に基づいて担当講師がトピックを示し、受講者それぞれの意見や疑問点などについて話し合っていきたいと思います。
本講義では、文献講読を踏まえ、文献の内容の要点をつかみ、各自の意見・疑問点を出すことが望まれます。これらは講義の中で、文献の要点のとらえ方、意見の出し方などについてはその場でアドバイス・サポートしていきたいと思います。
詳しくは初回の講義で説明するので、受講希望者は必ず出席して下さい。

[成績評価の方法]

出席回数、授業態度、プレゼンテーションの質、討論の参加度、期末レポートなどを総合して評価を行います。

[教科書]

ジョン・ケース著・佐藤修訳『経営数字の共有がプロフェッショナルを育てる：オープンブック・マネジメント』ダイヤモンド社、2001年。

[参考文献]

・加登豊・李建（2000）『ケースブック・コストマネジメント』新世社。

・その他の参考文献については、講義の進行に従って指示します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
文献演習	04 05	通　期 通　期	4単位 4単位	金　光　明　雄

［演習概要・学習目標］

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この演習の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

［演習計画］

この講義では、会計学の入門的な基礎知識について勉強します。会計は、企業内部の管理者に対して製造原価や生産性などの資料を提供する「管理会計」と、企業外部の株主や債権者に対して企業の財政状態や経営成績などの情報を提供する「財務会計」に大別されます。

この講義では、主に財務会計を対象として、財務会計の理論と制度を網羅的に理解することを目指します。また、財務会計における最近のトピックスについても随時取り上げていく予定です。講義の進め方としては、教科書の内容にそって、事前に報告の担当者を割り当て、報告担当者に発表してもらったうえで、その報告内容に関して討論を進める形式で行います。

なお、この講義の具体的な進め方や成績評価の方法については初回の講義（オリエンテーション）で説明しますので、受講希望者は必ず初回の講義に出席してください。

［成績評価の方法］

出席状況、担当時の報告内容、討論への貢献度、提出レポート、期末試験などを総合して評価します。とくに平常点を重視する予定です。

［教科書］

桜井久勝『会計学入門（2版）』日本経済新聞社，2001年。
その他、適宜、講義のなかで指示または資料を配布します。

［参考文献］

桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門（新版）』有斐閣，2000年。
桜井久勝『財務会計講義（第4版）』中央経済社，2002年。
その他の参考文献については、必要に応じて講義のなかで指示します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
文献演習	06	通 期	4単位	柴　理梨亜

［演習概要・学習目標］

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この演習の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

［演習計画］

事前に担当を決め、各章を発表して全員で議論や意見交換をする。そして、各自興味ある分野の企業を選んで調査をして、報告やプレゼンテーションを試みる。

［成績評価の方法］

平常の報告内容、レポート、クラスでの発表を総合的に評価する。
無断欠席は減点になります。

［教科書］

ポール・ストバート（編）、岡田依里（訳）「最強の国際標準ブランド・パワー」、日本経済評論者

［参考文献］

＊安本隆晴（著）「ユニクロ！監査役実録」ダイヤモンド社

＊スコット・ベドベリ（著）土屋京子（訳）「なぜみんなスターバックスにいきたがるのか？」、講談社

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
文献演習	07	通　期	4 単位	鈴　木　幾多郎

［演習概要・学習目標］

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この演習の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

［演習計画］

［成績評価の方法］

出席、報告・発言等の内容などを総合的に評価する。

［参考文献］

参考文献及び資料等については、その都度指示する。

［教科書］

野口悠紀雄『日本経済　企業からの革命―大組織から小組織へ』日本経済新聞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
文献演習	08 09 10	通　期 通　期 通　期	4単位 4単位 4単位	隅田　孝

［演習概要・学習目標］

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この演習の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

［演習計画］

1. マーケティングの基本概念
2. インターネット・マーケティングへのイントロダクション
3. 新たな顧客関係の創造
4. カスタマイゼーション
5. マーケティング・コミュニケーション（マーコム）
6. マーケティング・コミュニティ戦略
7. インターネット調査
8. eブランディング
9. インターネット・マーケティングと個人情報保護
10. まとめ

実際にコンピュータを使った講義を数回行う予定である。

［成績評価の方法］
出席状況、授業態度、期末試験により総合的に評価する。

［参考文献］
(社)日本マーケティング協会(編)『マーケティング・ベーシックス』第二版、同文舘、2001年。

［教科書］
(社)日本マーケティング協会監修『インターネット・マーケティング・ベーシックス』日経BP社、2000年。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
文献演習	11 12	通　期 通　期	4単位 4単位	中　村　恒　彦

[演習概要・学習目標]

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この演習の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

[演習計画]

この講義の目標は、現在話題の「国際会計基準」に関する「現実問題」について議論することです。そのために、様々な準備や予備知識を学習していきます。講義は、段階別にレポートの作成方法・発表の練習・討論の練習に分割したいと思います。

第一段階として、レポートの作成方法について学習します。次に、第二段階として、ゼミ発表の練習をしたいと思います。具体的には、担当者を二名指定し、教科書の語句を調べて発表してもらいます。第三段階として、討論の練習をしたいと思います。具体的には、担当者・コメンテーターを指定し、発表箇所の内容をまとめて、自分の意見を主張してもらいます。その内容を受けて、みなさんで「国際会計基準」について議論したいと思います。

最後に、私は、今年度就任ということでなにかと不手際が多いと思いますが、みなさんとゆっくり学習できればよいと思います。

[成績評価の方法]

出席率、発表姿勢、報告準備を勘案して評価する。

[参考文献]

教科書には時事問題がきわめて多いので、日本経済新聞をよく読んでおくと良い。

[教科書]

磯山友幸 [2002]『国際会計基準戦争』日経BP社 1500円

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
文献演習	13 14	通　期 通　期	4単位 4単位	深　谷　清　之

[演習概要・学習目標]

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この演習の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

[演習計画]

情報の取扱（戦略情報と一般情報の違い）、戦略情報をどのように収集、分析、評価するのか、どのような技法、手順があるのかなどを学ぶ。

[成績評価の方法]

出席状況、授業態度、期末試験等を総合的に判断する。

[参考文献]

必要に応じて、適宜指示する。

[教科書]

石川　昭　『戦略情報システム入門』（日経文庫 1997年）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
文献演習	１５	通　期	４単位	山　本　浩　二

［演習概要・学習目標］

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

［演習計画］

前期は、企業が厳しい競争の中で生き抜いて打ち勝つために、低コストと高品質を達成するための手法について勉強します。品質とは、単に製品が故障したり壊れたりしないといった点を問題にするのではなく、顧客の満足を満たしたり、環境への配慮など、その考え方が広がっています。ただ、企業ではコストの面も考えなければなりません。品質コストマネジメントとは、品質とコストの管理を結びつけて考えるものであり、授業では代表的な文献を輪読する形式で授業を行います。

後期は、いま我が国でベンチャー企業による新産業創出と経済の活性化が期待されている状況に照らして、ベンチャービジネスに関連する文献を読んだり、参加者の関心のあるテーマを取り上げて各自に報告してもらい、みんなで話し合うことを中心にした形式で授業を行います。

［成績評価の方法］

日常の出席状態と担当箇所の報告内容およびレポートによって評価します。

［参考文献］

必要に応じて指示します。

［教科書］

〈前期〉
伊藤嘉博著『環境を重視する品質コストマネジメント』中央経済社
〈後期〉
適宜、指示または資料を配布します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
文献演習	１６	通期	４単位	吉川真裕

［演習概要・学習目標］

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この演習の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

［演習計画］

少人数のグループに分かれてグループごとの報告を行いながら、議論を深めていく。

1. 経営学とは何か
2. 企業家の養成
3. 企業家の群像
4. 経営学説史
5. ファイナンス
6. マーケティング
7. 人的資源管理
8. 財務報告
9. 国際経営

［成績評価の方法］

演習に参加する（出席するではない）には準備が必要なので、授業態度を重視する。グループごとのプレゼンテーション、レポートまたは期末の授業内試験（論述形式）。

［参考文献］

教科書の各章末に掲載されている文献。

［教科書］

藤村博之･洞口治夫『現代経営学入門 21世紀の企業経営』ミネルヴァ書房、2001年、¥2500

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
文献演習	17	通　期	4 単位	村　上　伸　一

[演習概要・学習目標]

経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい！」「ひとつまじめに勉強してみよう！」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この演習の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。

[演習計画]

第1回目にオリエンテーションを実施し、最終回にレポート発表・検討会を開きます。教科書は次のように全10章。

第1章　戦略的アライアンスとは何か
第2章　可能な価値を発見する
第3章　価値創造の条件とは
第4章　戦略的共通性を確保する
第5章　アライアンスをデザインする
第6章　コオペレーションを開始する
第7章　共同学習によって進化させる
第8章　パートナーシップを構築する
第9章　複数のアライアンスを管理する
第10章　戦略的アライアンスを成功させる

[成績評価の方法]

担当部分の発表内容と毎回の発言内容で４０％，提出レポート内容で６０％の評価。

[教科書]

G.ハメル＆Y.L.ドーズ（志太・柳監訳）『競争優位のアライアンス戦略』ダイヤモンド社、2001年。
経営管理論分野の比較的平易な内容の本です。上記学習目標を達成するための素材として適切な文献です。

[参考文献]

単にテキスト担当部分を要約して発表するのではなく、関連文献を検索して選択し読み、テキスト内容に厚みを加えていく作業が求められます。そのためにも、経営や経済の専門辞典を十分活用してください。ビジネス雑誌も気軽に読み、ベンチャー企業や大企業の動向にも目を向けていきましょう。
経営管理論の履修もお勧めします。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学総論	01	春学期集中	4単位	野　田　俊　範

[講義概要・学習目標]

本講義は、経営学を初めて学ぶ学生を主たる対象とする、いわば「経営学入門」である。本講義の主要な課題は、経営学の学問的な性格を明らかにすること、ならびに、その経営学が研究対象とする企業・経営の基本的原理を概説することである。
本講義は、以下のような学習目標をもっておこなわれる。
①経営学の全体像を体系的に把握すること。
②企業・経営の基本的原理を理解すること。
③現代社会において企業がもつ意義や課題について、各自が主体的に関心をもつこと。

[講義計画]

Ⅰ．経営学とは何か
　1．経営学の意義
　2．経営学の成立
　3．社会科学としての経営学
Ⅱ．企業とは何か
　1．企業の基本的特質
　2．企業の基本的形態
　3．株式会社の特質
　4．企業を支配するもの
Ⅲ．経営管理の基本問題
　1．経営管理の意義
　2．経営管理思想の展開
　3．経営組織の論理
　4．経営戦略の論理
Ⅳ．現代社会と企業経営
　1．現代社会における企業の意義と課題
　2．経営学の展望

[成績評価の方法]

学期末試験により評価する。

[教科書]

使用しない。

[参考文献]

奥田耕一編著『新時代の企業経営』同文舘　1998年。
万仲脩一・海道ノブチカ編著『利害関係の経営学』税務経理協会　1999年。
その他、必要に応じて適宜指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学総論	０２ ０３	春学期集中 春学期集中	４単位 ４単位	谷　口　照　三

［講義概要・学習目標］

経営学は、人間生活と密接に関係している、いわゆる企業を主たる対象に研究してきた。この企業の具体的なイメージとしては、「何々会社」を思い描けばよい。われわれが住むこの世界には、様々な会社があり、それらの会社が人間の生活に必要な様々な物やサービスを提供している。経営学は、人間の生活に必要な様々な物やサービスとは何か、またそのような物やサービスを提供するために必要で充分な条件や物事および考え方とは何かを明らかにすることをめざしている。しかし、その際、いくつかの点を考慮する必要があるが、とりわけ以下の２つの視座ないし態度が重要である。まず第１に、人間生活やそれに応答する企業の活動は、時代によって変化する面と変化しない面があるので、それらを峻別し、その上でそれらの関係を考えていかなければならない。企業の活動は、多くの人々の働きや社会的な制度および自然環境に支えられたり、それらに制約を受ける。そればかりでなく、企業の活動はこのような諸環境に大きな影響を与える。従って、次に考慮しなければならない点は、それらの諸環境と企業の関係を、「プラスの影響とマイナスの影響」の双方からとらえていく態度である。

本講義では、この様な２つの視座ないし態度の下に、経営学の基礎と概略、および経営学を学ぶことの意味が理解できるように、進めていきたい。受講生の皆さんの心の中に、経営学を学び、研究することへの新鮮な興味と輝かしい情熱が生まれることを期待している。

［講義計画］

＜前期＞
1．生活を支える企業，
2．環境の変化と企業経営，
3．現代の企業社会と経営学を学ぶ意義，
4．企業は誰が経営し、動かしているのか，
5．企業は何をめざして活動しているのか，
6．企業が利用できる経営資源には。どのようなものがあるか，

＜後期＞
7．企業はどのようにして経営し、組織をつくるのか，
8．企業の組織はどのように動いているのか
9．企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか
10. 企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているのか
11. 組企業はどのようにして資金を調達し、運用するのか
12. 企業はどのようにして人材を活用するのか
13. 企業はどのようにして文化をはぐくむのか

［成績評価の方法］

不定期小テスト、リポートおよび学期末試験の総合評価。

［参考文献］

必要に応じて適宜指示する。

［教科書］

片岡信之、斉藤毅憲、高橋由明、渡辺　峻共著『はじめて学ぶ人のための経営学』文眞堂、２０００年。

経営 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学総論	０４	秋学期集中	４単位	片　岡　信　之

［講義概要・学習目標］

この講義は、皆さんが将来経営学の各論講義で詳しい話を聞く前に、経営学の全般について予め予備知識を持っていることがふさわしいという狙いから設けられています。

したがって、本講義の目標もその点におかれることなります。すなわち、経営学全体について、広く浅くサーベイするということです。しかも、出来るだけ、経営学という学問が面白いものだという感じを持って貰えるように、皆さんを動機づけ出来たらよいと思っています。

経営学は範囲が広いので、時間的事情によってはすべてを網羅することにまで至らないかもしれませんが、出来るだけ多くのことをお話ししたいと思っています。経営学の基礎知識をつけるのだという気持ちで臨んで下さい。

ノートを必ず取ってください。この講義の目的の一つは、今後４年間に話を聴いて要点を掴み、ノートに取るという訓練を１年生の初めから習慣づけてもらうことを兼ねています。したがって、学年末にはノートを提出してもらい評価点として加味します。

［講義計画］

テキストに従って、概ねその順に講義を進めます。
1．生活を支える企業
2．環境の変化と企業経営
3．現代の企業社会と経営学を学ぶ意義
4．企業は誰が経営し、動かしているのか
5．企業は何を目指して活動しているのか
6．企業が利用できる経営資源には、どのようなものがあるか
7．企業はどのようにして経営し、組織を作るのか
8．企業の組織はどのように動いているのか
9．企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか
10. 企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているのか
11. 企業はどのようにして資金を調達し、運用するのか
12. 企業はどのようにして人材を活用するのか
13. 企業はどのようにして文化をはぐくむのか

［成績評価の方法］

①学年末テスト結果によるほか、②講義ノートチェック（出席してしっかりノートを取っているかどうか）、③講義中の小テストをきちんと書けているかどうか、などによる総合評価とします。

概ね学年末テスト結果７割、その他３割の比重で評価をします。

［教科書］

片岡信之・齋藤毅憲・高橋由明。渡辺峻『はじめて学ぶ人のための経営学』文眞堂、2500円

［参考文献］

●特に指定はしませんが、ポーダブルな（携帯できる小さな）経営学辞典をいつも手元に持っていることを奨めます。授業の時に必要に応じてひいてみるほか、常日頃からすき間時間を利用して、どの言葉からでも手当たり次第に読んで下さい。つぎの何れかが、値段も手頃で良いでしょう。

1. 経営学史学会編『経営学史事典』文眞堂、3000円（5月刊行予定）
2. 吉田和夫・大橋昭一編『基本経営学辞典』同文館、2500円
3. 二神恭一編『ビジネス・経営学辞典』中央経済社、3500円

●経営学は様々な最新知識の総合という特徴があります。『現代用語の基礎知識』（自由国民社）『イミダス』（集英社）のいずれかを手元に置いて、手当たり次第に読んで雑学をしてみてください。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営管理論	０１ ０２	春学期集中 秋学期集中	４単位 ４単位	村上　伸一

［講義概要・学習目標］

経営管理（マネジメント）論はアメリカ経営学の中心に位置し，１世紀余りの歴史をもっています。支配から，価値を創造する協働の適応的調整としてのマネジメントへの人々の意識のシフトは，自由や機会平等といった基本的人権を基盤とする近代市民社会の成立に由来すると考えられます。

経営管理の場は組織ですから，経営管理論と組織論とは一体的に発展を遂げています。現代社会は学校や病院など多様で膨大な組織から構成されていますが，本講義では，主に企業に焦点を絞ることにします。現代の日米を中心にビジネス事情と経営管理の実態を概観しながら，組織と管理に関する理論を学んでいきましょう。

主に基盤的理論を学習しますが，学習を通して，実践的有用性のみならず，知的な面白さも実感し，自ら学ぶ意思を固めていくこと，これが当面の目標となります。

［講義計画］

オリエンテーション
イントロダクション
第１講　経営管理と経営管理者
第２講　経営学と経営管理論
第３講　経営管理と経営管理学説：実務と学際的応用社会科学
第４講　近代経営管理論：意思決定論
第５講　経営組織論
第６講　戦略的経営管理論
第７講　価値創造の経営管理論
コンクルージョン

［成績評価の方法］

試験成績により評価します。ビデオや教科書利用のミニ・レポートを講義中に書いていただき，それを評価に加える可能性もありますので，毎回教科書を持参下さい。

［教科書］

村上伸一『価値創造の経営管理論（改訂三版）』
創成社，2003年。

［参考文献］

片岡信之『日本経営学史序説』文眞堂，1990年。
眞野　脩『組織経済の解明』文眞堂，1978年。
村田晴夫『管理の哲学』文眞堂，1984年。
図書館で読むことができます。その他，適宜紹介します。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経　営　学　史		秋学期集中	４単位	野　田　俊　範

［講義概要・学習目標］

経営学は、ドイツとアメリカにおいて20世紀初頭に成立した若い学問である。そしてその経営学は、ドイツ、アメリカ、および日本においてめざましい発展を遂げてきたのである。日本における経営学は、ドイツ経営学を骨とし、アメリカ経営学を肉として発展してきたと言われるが、特に学問としての経営学の体系や方法論などの点で、ドイツ経営学によって多大の影響をうけてきたことは事実である。

本講義では、そのドイツ経営学の生成・展開の歴史を概観し、主要な理論傾向について概説するするとともに、今後の発展の方向について考えることとしたい。その際、学説と、その学説の歴史的・社会的背景との関連を明らかにすることを重視する。いかなる学説も、それの社会的・経済的・文化的背景による制約から逃れることはできないからである。

ドイツ経営学の歴史を学ぶことを通じて、今日世界の経営学で主流をなしているアメリカ流の経営管理学とは違う、経営学の今ひとつの可能性を知ってほしい。

［講義計画］

Ⅰ．経営学史の方法
　1. 経営学史研究の意義
　2. 経営学史研究の課題

Ⅱ．ドイツ経営学の発展
　1. 私経済学の成立
　2. 経営経済学の確立
　3. 経営経済学の展開
　4. 転換期の経営経済学

Ⅲ．現代のドイツ経営学
　1. ドイツ経営学の意義
　2. ドイツ経営学の展望

（詳細な講義計画については、第1回目の講義において提示する。）

［成績評価の方法］

学期末試験により評価する。

［教科書］

使用しない。

［参考文献］

木谷勤／望田幸男編著『ドイツ近代史』ミネルヴァ書房　1992年。
海道ノブチカ／深山明編著『ドイツ経営学の基調』中央経済社　1994年。
その他、必要に応じて適宜指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営史		春学期集中	４単位	長谷川　彰

［講義概要・学習目標］

「経営史学」という学問は、比較的新しい領域に属する学問分野である。近年におけるこの分野の発展には目を見張るものがある。そこで本年度の講義は、まず経営史学の成立、発展の歴史的過程を明らかにし、さらに、その過程で生まれた企業者史学などの学説史的検討をおこないたい。

次に、具体的事例の検討に入りたい。その場を日本に求め、江戸時代以降の経営史を明らかにしていきたい。つまり、前近代社会から近代社会における経営活動を中心とした歴史的過程の分析が考察の対象となる。

［講義計画］

＜春学期＞

1．経営史学の成立と発展
2．経営史学の展開
3．企業者史学の台頭
4．前近代社会の経営史
5．近代社会の経営史
6．現代社会の経営史

［成績評価の方法］

試験を中心に行う。

［教科書］

藤田貞一郎、他著「日本商業史」有斐閣、１９７８年

［参考文献］

随時指定する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
企業論		秋学期集中	4 単位	稲　別　正　晴

［講義概要・学習目標］

企業社会といわれるように、企業は生産や流通などの経済活動において大きな役割を担っているが、今日の典型的な企業は株式が公開されており、いわゆる所有と経営の分離がみられる株式会社である。また、企業は絶えず変化する環境への対応を迫られている存在である。このような企業の仕組みとその諸問題を理解することは極めて重要である。

本講義では企業と市場、企業目的、企業活動の経済原則、経営者の役割、経営者と株主やその他利害関係者の関係、企業組織、経営戦略、企業と環境問題などを明らかにする。

わが国企業はバブル崩壊後の激変する環境のもとで構造改革を迫られているが克服すべき課題は依然として多い。かつては我が国企業の強みとされていた多くの要因がいまや負の遺産として企業の大きな負担となっており、日本企業はそのシステムの何を残し、何を変革あるいは捨てるべきかを問われている。

本講義では、改革を迫られている日本企業の諸課題も視野に入れて、上のような企業の諸問題を論じる。受講生諸君の積極的な参加を期待している。

［講義計画］

1．序論―企業と市場
2．企業形態、株式会社を中心として
3．企業目的
4．企業評価と成長
5．所有と経営の分離
6．プリンシパルーエージェント関係
7．コーポレート・ガバナンス
8．取引費用の理論
9．企業組織
10．経営戦略
11．企業経営と環境問題
12．日本の企業システム
13．日本企業の海外進出

［成績評価の方法］

試験の成績にリポートの評価を加味する.

［教科書］

稲別正晴著『企業の基礎理論』法律文化社.

［参考文献］

教科書に記載、なお、新しい文献は講義時に指示.

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経営財務論		春学期集中	4 単位	今木秀和

[講義概要・学習目標]

企業は、さまざまな経営資源を必要としている。人、物、金情報等の資源がそれである。このうち金（カネ）という資源を対象として講義を行うのが経営財務論である。

金（カネ）は、経営財務論では資本といわれる。企業は、必要な資本を資本市場や企業内部の源泉から調達する。調達した資本は、目的に合わせて資産の形で運用される。運用の成果は利益として把握され、配当その他として処分される。資本の調達、運用、利益処分がこの講義の主要な問題領域である。

経営財務の基礎知識の習得が、この講義の目標である。

[講義計画]

株式会社の本質
株式に関わる問題
利益の留保政策
債務証券
借入金
経営・財務計画
資金管理・リスク管理
合併・買収等

[成績評価の方法]

成績は学期末テストを基本とする。小テストも行う予定。
レポート提出、出席も考慮して、テストと合わせて評価する。

[教科書]

教材として次のものを使う。
坂本恒夫編『テキスト財務管理論』中央経済社

[参考文献]

後藤幸男他編『新経営財務論講義』中央経済社
杉井弘和編著『企業財務論』税務経理協会
村松司叙著『財務管理入門』同文館
井手正介他著『経営財務入門』日本経済新聞社

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経営労務論		春学期集中	4 単位	面地豊

[講義概要・学習目標]

人間の労働が経営と結びつくことによって、どんな問題が生じてくるか、を説明する。そこで生じる問題を、経営の側から見るのではなく、労働する人間の側から見ていく。このことを通して、経営労働の人間的問題を考えていく眼をもつことを学習の目標とする。

経営労務論は、結局、労働者問題を取り扱う学問であることが理解されるならば、目標達成である。

[講義計画]

講義は、基礎論と各論とに分けておこなう。基礎論においては、何故労働者問題が生ずるか、その内容は何か、について論求していく。

各論においては、具体的な、経営労働に関する問題について論じていく。賃金、労働時間、労働に関する法律等々、多数のことについて説明していく。

資、教科書は、基礎論で用いる。

[成績評価の方法]

試験によって評価する。

[教科書]

拙著『経営社会学の生成』千倉書房

[参考文献]

その都度指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
生産管理論		秋学期集中	4 単位	鬼　塚　光　政

[講義概要・学習目標]

＜概要＞ 産業革命期の英・仏国に芽生え、１９世紀末から米国で本格的に展開し、１９７０年代以降日本で新たに展開した「近代的生産管理」の生成・発展の過程を経済、社会、技術等の背景を踏まえて段階的に跡付け、各段階の代表的な生産管理方式の構造、特徴、意義と限界を講述する。この場合始めに、市場経済体制下の企業の生産管理の基本的性格、その分析の視点と分析に用いる基礎概念を明確にした上で、主題の生産管理の生成・発展史の考察に入る。

＜目標＞
（１）生産管理の基本的性格と分析視角
（２）生産管理システムの分析に必要な基礎概念
（３）各段階の代表的生産管理方式の構造、特徴ならびに意義と限界
（４）経営工学の関連諸手法とそれらの生産管理への適用
（５）生産管理の発展と社会・自然との関係

[講義計画]

（１）オリエンテーション（１回）
（２）生産管理の基本的性格と分析視角（６回）
（３）中間試験（１回）
（４）生産管理の生成と発展（１８回）

[成績評価の方法]

出席状況、中間試験・期末試験計２回の評価、レポートの提出状況等を総合して評価。

[教科書]

追って指示する

[参考文献]

追って指示する

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
マーケティング論		秋学期集中	4 単位	鈴　木　幾多郎

[講義概要・学習目標]

この講義では、マーケティングの役割、顧客満足、顧客価値及び顧客維持の確立、市場、市場需要、マーケティング環境の理解、消費者市場と購買者行動の分析、競争への対処、市場セグメントの明確化と標的市場の選択、製品開発とポジショニング、価格設定戦略、マーケティング・チャネルの選択、電子商取引とオンライン・マーケティングなどのマーケティングの問題を分析するための基礎概念と枠組みを提示し、ケースや事例をもとに、効果的なマーケティングの原理、戦略、実践法を解説する。

[講義計画]

１．マーケティングの役割
２．顧客満足、顧客価値及び顧客維持の確立
３．市場、市場需要、マーケティング環境
４．消費者市場と購買者行動の分析
５．競争への対処
６．市場セグメントと標的市場の選択
７．製品開発とポジショニング
８．製品ラインとブランド
９．価格設定戦略と価格プログラム
１０.マーケティング・チャネルの選択とマネジメント
１１．ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング

[成績評価の方法]

試験（レポートも含む）で評価する。

[教科書]

レジメ及び資料を配布する。

[参考文献]

参考文献及び資料等については、その都度指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
流　通　論	０１ ０２	春学期集中 秋学期集中	４単位 ４単位	岸　本　裕　一

［講義概要・学習目標］

流通とは、生産と消費という２つの経済活動の間に存在する懸隔（隔たり）を架橋する経済活動である。流通論は、この流通を分析対象として、これを国民経済的視点から論ずるものである。そのうえで、近年特に、大切になってきているのは、地球的規模での流通を考える視野を持つことであり、かつまた、時代の要請に応えるべく、フロンティア精神でもって思考構築を行なうことであろう。そこで、この講義の学習目標を要約していえば、建学の精神にいう世界の市民としての視点から、新世紀の流通・マーケティングの最前線を理解することということになる。

さて、講義内容は、講義計画に示すように多岐にわたるが、その一部を紹介する。まずはじめに、世界経済のトレンドと流通や、流通論の範囲と対象などの概論を学んだ後、各論に入る。まず、教科書2を用いつつ、ブランド論・販売促進論を講義する。販売促進の１つであるテレビＣＭは、現代社会を映す鏡であることを踏まえたい。また、フロンティア産業としてのエンターテインメント・ビジネス論が興味深い。教科書1を用いつつ、音楽ビジネス・マーケティングの展開やギャンブル産業・マーケティングの新展開、特にカジノ開設の是非などに触れていきたい。ビデオやＣＤ等を駆使しながら、わが国独特のこの状況をも含めて、リアルタイムに動くもの取り入れていくつもりである。

［講義計画］

1. 世界経済のトレンドと流通
2. 流通論の範囲と対象
3. 地域振興と流通
4. ブランド論
5. 販売促進論
6. フロンティア産業としてのエンターテインメント・ビジネス論
   1) 音楽ビジネス・マーケティングの展開
   2) ギャンブル産業・マーケティングの新展開（カジノ開設の是非）
7. 今後の流通の展望
   ――地域経済と世界経済――

［成績評価の方法］

定期試験の点数と、平常提出物の評価と、授業での参加と貢献、出席頻度などを総合的に評価して行なう。

［教科書］

1. 岸本裕一・生明俊雄著『J-POPマーティング』中央経済社、２００１年。
2. 岸本裕一・青谷実知代著『バーモントカレーとポッキー――食品産業マーケティングの深層』農林統計協会、２０００年。

［参考文献］

進行にしたがって指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
証券論		通　期	４単位	吉川真裕

［講義概要・学習目標］

この授業では証券市場の仕組みを説明した上で、受講者自身が将来いかにして証券市場を活用していくのかという実践的な課題への指針を獲得してもらうことを目標とする。個人による資産運用がますます求められる中で、いかにして証券市場を活用し、個人の生活を向上させるのかということは重要な問題である。どの株を買えば儲かるのかということではなく、どのようにすれば有利に資産を増やしていくことができるのかということを考える機会にして欲しい。

［講義計画］

1. 証券
2. 証券市場
3. 投資リターンのとらえ方
4. 株式投資のリターン
5. 企業価値の評価尺度
6. 証券投資のリスク
7. 株式投資戦略
8. ポートフォリオで考える
9. 資産ミックスで運用する
10. パッシブ運用
11. アクティブ運用
12. 投資信託
13. 国際投資戦略
14. 年金運用と証券投資

［成績評価の方法］

持ち込み不可の中間試験と期末試験。試験問題は論述形式であり、自分の言葉で答えられるかどうかを重視する。

［教科書］

井手正介･高橋文郎『ビジネスゼミナール 証券投資入門』
日本経済新聞社、2001年、¥2500

［参考文献］

大和総研『日本人のためのお金教科書』翔泳社、2001年

証券広報センター『証券市場2002』日本経済新聞社、2002年

日本証券経済研究所『詳説 日本の証券市場 2002年版』
日本証券経済研究所、2002年

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
保険論		秋学期集中	４単位	武田　久義

［講義概要・学習目標］

ときおり、保険のつもりで＊＊を履修した」という学生の会話を耳にする。この場合の「保険」という語の使用を１００パーセント間違いということはできないが、保険理論から見れば、非常におかしい。本来、保険は、リスクに対処する手段の一つである。リスクに対する合理的管理法は、一般にリスクマネジメントと呼ばれている。したがって保険もまた、広範なリスクマネジメントとの関連のもとで理解される必要がある。そして現在の社会では、保険が様々なリスクマネジメントのうちで中心的な役割を占めているために、リスクマネジメントの学習においても主に保険が学ばれることになるのである。

ところで日本の保険制度は、現在大きな転換期にある。事実、これまでの日本では考えられなかったような、様々な出来事が保険に関連しても起こっている。これは、ただ保険に限らず、日本自体が歴史的な転換期にあるからであろう。このような変化は、基本的には、情報化社会への変化に関連して把握されるものであろう。

この講義では、以上のような変化と将来における保険、そしてひろく保障制度のあり方についても、述べていきたい。

［講義計画］

主な講義内容は、次の通りである。

＊リスクの意味と内容。
＊リスクマネジメント。
＊保険の意義と役割。
＊保険の類似制度。
＊保険の契約。
＊保険と保障。
＊保険の種類と代表的な保険についての説明。
＊保険の歴史と保障制度の将来。

なお、レポートを頻繁に提出してもらう予定である。
「保険のつもり」でこの講義を登録すれば、後悔するかもしれない。

［成績評価の方法］

期末テストとレポートによる。

［教科書］

プリントを配布する。

［参考文献］

保険に関連するものは、基本的に参考になる。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国際経営論（旧経営・商学特講（国際経営論））		春学期	２単位	中　井　壽

［講義概要・学習目標］

企業は何故国境を越えて事業展開をおこなうようになるのか。またそれはどのような戦略や組織のもとで遂行されるのであろうか。また国境を越えた企業活動は、その地に根づくため「経営の現地化」にどのように取り組むのか、そして本社の海外子会社のグローバル管理はどのようになされるのか。経営活動の国際化に伴うこれらの主題の学習は興味尽きないものがある。国際経営の観点から理論と実践事例を合わせながら講義をすすめる。

講義の前半は日本企業のアジアにおける事業展開に焦点をあわせ、後半は国際経営の戦略と実践について、欧米企業のグローバル事業展開を含め事例を多く活用する。

［講義計画］

（A）国際経営と環境
（B）企業の国際化
　１．国際経営と多国籍企業
　２．日本企業の国際化発展の系譜
　３．日本企業の海外事業展開（アジア）
（C）経営の国際化
　１．国際化戦略と組織
　２．海外子会社の統括・管理
　３．グローバル人材の育成と活用
　４．「経営の現地化」
（D）国際経営 －戦略と実践－
　１．多国籍企業の海外事業展開
　　アセアン・中国・ＥＵ・米国市場
　２．「集中と選別」の国際経営戦略
　３．マーケティングの国際化

［成績評価の方法］

出席と試験結果の総合評価

［教科書］

授業時資料を配布

［参考文献］

日頃から世界政治・経済の関連記事に目を通すよう努めて下さい。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営情報技術論 （旧情報システム概論）	０１ ０２	春学期集中 秋学期集中	４単位 ４単位	村　山　博

［講義概要・学習目標］

情報社会では、情報技術を用いた様々なシステムの活用または開発が不可欠である。本講義では、ビジネスマンまたはビジネスウーマン、社会人として必要な情報技術の基礎を目的とする。

［講義計画］

1．コンピュータの歴史
2．コンピュータによる情報表現
3．コンピュータのハードウエア構成
4．ソフトウエア：オペレーティング・システム、応用ソフトウエア
5．ソフトウエア開発法：開発手順、プログラミング、アルゴリズム
6．ファイルとデータベース
7．通信の仕組み
8．通信ネットワークシステム：ＬＡＮ、インターネット等
9．情報システムとセキュリティ
10．計測と制御

［成績評価の方法］

出席状況、授業態度、小テスト、期末試験により、総合的に判断して評価する。

［教科書］

村山博、大貝春俊著「情報管理」コロナ社　2003

［参考文献］

その都度指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営情報システム論（旧経営情報論）		春学期集中	4 単位	深　谷　清　之

［講義概要・学習目標］

1951年に世界最初の電子計算機が販売されて以来、コンピュータは、製造、流通、金融、行政などの多くの組織において多様な使われ方をし、経営のあり方に大きな影響を与えて来た。特に近年は、コンピュータ技術や通信技術などを駆使して、経営戦略の企画・検証，組織の再構成、意思伝達メカニズムの効率化などが戦略的に進めている。

本講義では、まず、そのような経営情報システムとは何かを概観したあと、情報システムを効果的に導入したいくつかの先進的な事例を紹介し、その効果はどのようなものかについてケーススタディを通じて講述する。

次に、経営情報システムを理解するために必要な最小限の基本的な情報技術を紹介した後、組織における情報管理、組織と情報システムの関係、業務形態と情報システムの関係、経営と情報システムの関係などを学ぶ。

［講義計画］

・ 経営情報システムに関する概論
・ 企業における先進的情報システム事例
・ 経営情報システムにおける基本情報技術と情報管理
・ 組織と情報システム
・ 業務形態と情報システム
・ まとめ

［成績評価の方法］

授業の出席状況、レポート及び期末試験で総合的に評価する。

［教科書］

薦田 憲久、矢島 敬士：『企業情報システム入門』(コロナ社　1999年)

［参考文献］

必要に応じて、適宜指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
情報化組織論　(旧　システム設計)		秋学期集中	4単位	牧野　丹奈子

［講義概要・学習目標］

情報化社会の今日，企業には新しい知識を次々と生み続けることが求められている。しかし，画期的な知識を生み続けることは易しいことではない。
では，どのような組織ならば，新しい画期的な知識を次々と生み出せるのか。どのような組織構造や職場が望ましいのか。
このような問題に対して，企業組織をひとつの“システム”とみなしながら取り組むことが，本講義の学習目標である。
つまりこの講義では，“情報化社会では，どのような組織が成功するのか”を，システム論を用いながら学習することになる。

講義の進め方としては“聴く”だけでなく，小問題を解きながら“考える”ことを重視する。

［講義計画］

1．自己組織化経営の必要性（情報化社会で企業に求められること）
2．個人自律化（情報化社会で個人に求められること）
3．組織の二重構造（組織のとらえかた）
4．「自律性」と「関係性」（職場のとらえかた）
5．情報と物質とのちがい

［成績評価の方法］

試験とレポートなどの総合評価によっておこなう。

［教科書］

『経営の自己組織化論－装置と行為空間』牧野丹奈子　日本評論社

［参考文献］

その都度，参考文献を紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営工学		春学期集中	4 単位	明　石　吉　三

［講義概要・学習目標］

経営工学は経営諸問題に対する科学的、数理的接近法である。この分野は英国、米国を中心に軍事研究を発端に生まれた。その後、ＩＥ、オペレーションリサーチ、経営科学として、経営諸問題の科学的、特に数学的手法、方法を発展させてきた。
本分野は数学的分析、計画手法、様々な分野理論が含まれ極めて広範囲である。本講座では、文科系学生諸君を前提に、経営工学接近法の意義、手法、モデル化法を講義する。高度な数学的知識を必要としない講義にする予定である。

［講義計画］

以下の内容を講義する。
（1）経営工学とは
（2）数理計画法
　a　線形計画法
　b　ＰＥＲＴ手法
　c　近年の話題（ニューロコンピューティング、遺伝アルゴリズム）
（3）在庫管理論
（4）品質管理論
（5）予測手法
（6）意思決定論

［成績評価の方法］

レポート及び試験による総合評価

［教科書］

なし

［参考文献］

別途指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
情報検索論（旧経営情報学特講（情報検索論））		春学期集中	4単位	志保田務

［講義概要・学習目標］

「情報」は生産されてのち、収集、利用され、再生産されます。この「利用」おいて、関心分野内にどのような情報があるかを把握する行動を情報検索と言います。言い換えると「情報検索」は蓄積された情報の中から特定の属性を有する情報を選び出す行動、英語では、information retrieval、略してIRと表現します。情報検索の重要さはインターネットに代表されるような今日のネットワーク環境下にますます重要になっています。本講義ではこの「情報検索」について概略を把握し、受講者と議論の交換を行います。

特に書誌的検索に絞って検索法等を追究します。書誌的検索に関しては、先行の分野として図書館情報学があります。本講義では図書館情報学における達成効果を参考に進めます。図書館情報学では、図書館利用が土台となります。特に、図書館の所蔵目録、OPAC（Online Public Access Catalog）の利用、活用を重視します。こうした所蔵資料の検索から、文献検索に進み、索引の検索、キーワード検索等に至ります。そこにおいては、用語を安定する典拠ファイル、シソーラス等の理解、活用を進めます。

こうした統制語による検索以前に自由語、キーワード検索など非統制語による検索があることは、上記のとおりです。統制語による検索は面倒のように見えますが、再現率が高くかえって豊かな検索ができます。非統制語による検索は適合率は高いものの、そのコトバの同意語での検索はできず、再現率が低くなることとなります。こうしたことを、前半は論理中心に、後半は、実習的なところを取り入れて展開します。

講義は、当然のことながら、順を追って進むので、できる限り出席を続け、講義の脈略を把握してほしいと考えます。なお、ホームページ、電子メールを活用する予定ですので、修得、対応を怠らないよう望みます。

［講義計画］

序　「情報検索」概説
1．「情報」概説
2．「情報」の歴史
3　「情報」と現代
4　社会生活と情報活用
5　情報検索
6．情報検索の諸局面
7．書誌情報の理論構造
8．書誌情報の技術の概要
10．情報検索を取り巻く情報環境
11．情報検索実習概説
12．図書館における所蔵検索（OPAC利用）
13．書誌情報検索
14．情報検索の諸局面
15．情報検索の枠組み
16．書誌情報検索の実行
17．ネットワーク活用
18．インターネット活用
19．データベース利用（1）
20．データベース利用（2）
21．情報の再生産（自己作成）
22．まとめ、またはテスト

［成績評価の方法］

前半末およぼ後半末におけるペーパーテスト、課題提出にて評価します。

［教科書］

後で指示する

［参考文献］

志保田務，平井尊士，中崎修一編著『情報活用術』　学芸図書　2000
渡部満彦，山本順一，堀川照代著『情報メディアの活用』放送大学振興会　2000

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
ビジネス情報利用（旧プログラミング論B）	01 02	春学期 春学期	2単位 2単位	榎本光世

［講義概要・学習目標］

1．Windowsやパソコンの基本的な操作を習得する。

2．Internet Explorer、Word、Excel、PowerPointなどの一般的なアプリケーションの簡単な使用法を習得する。

［講義計画］

1. 講義概要
2. パソコンの仕組みとWindowsの使い方
3. Internet Explorerの簡単な使い方(その1)
4. Internet Explorerの簡単な使い方(その2)
5. Wordの基本(その1)
6. Wordの基本(その2)
7. Excelの基本(その1)
8. Excelの基本(その2)
9. PowerPointの基本(その1)
10. PowerPointの基本(その2)

以上の内容は変更されることもある。

［成績評価の方法］

出席率、宿題の提出率、試験やレポートの成績、受講態度などによって総合的に評価する。

［教科書］

桃山学院大学計算機センター『ユーザーズガイド』。

［参考文献］

未定。

開講時に指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ビジネス情報利用（旧プログラミング論Ｂ）	０３ ０４	春 学 期 春 学 期	２単位 ２単位	**大 嶋　耕 一**

［講義概要・学習目標］

かつてマニアのおもちゃでしかなかったパソコンが、今では学習・研究、仕事、趣味といった、いろいろな局面での道具になった。この授業では、コンピュータを学習、研究の道具として使いこなすための基本的なスキルを学ぶことを目的とする。

内容としては、情報の収集（インターネットのWWW、E-mail）、加工・分析（表計算ソフト）、情報の表現・発信（ワープロソフト、E-mail）という、情報処理の基本要素全般を取りあげる。

これらの内容は、いずれもソフトウェアに習熟し、手足のように使いこなせるようになることが大切である。しかしながら半期の授業だけでこれらすべてに習熟することはできない。したがって課外での十分な学習（練習）を前提とする。

［講義計画］

第１回　ガイダンス、Windows の基本的な操作（マウスを中心に）
第２回　フロッピーディスクの扱い、テキストエディタを使ったキーボード操作、ファイルとフォルダの扱い
　注）Windows（DOS/V）フォーマット済みフロッピーディスクを用意しておくこと
第３回　テキストエディタを使った日本語入力・編集、クリップボードを利用した編集処理、その他基本的な機能
第４回　ワープロ入門（１）：文書の書式設定と基本的な文字属性
第５回　Network　入門（１）：ＬＡＮとインターネット、E-mail の使い方
第６回　ワープロ入門（２）：作表、レイアウト、文書作成の演習
第７回　Network　入門（２）：WWWの仕組み、WWWによる情報の検索
第８回　表計算入門（１）：文字・数値・式の入力、セルのコピー
第９回　表計算入門（２）：表の体裁を整える
第10回　グラフの作成、アプリケーションソフト間の連携
第11回　表計算ソフト、ワープロに関する演習
第12回～ 総合演習：Visual 文書の作成（文書の構造化と画像の活用）

［成績評価の方法］

出席　３０％、レポート・提出物　７０％ で評価する。

［参考文献］

桃山学院大学計算センター『ユーザーズガイド』
その他、授業時に適宜紹介する。

［教科書］

市販の教科書は使用せず、プリントでテキストを配布する。
注：桃山学院大学『ユーザーズガイド』は各自手に入れておくこと

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング（旧プログラミング論Ａ）	０１ ０２	秋 学 期 秋 学 期	２単位 ２単位	**榎 本 光 世**

［講義概要・学習目標］

Visual Basic を使用してプログラミングを体験し、

初歩的なプログラムを作成できるようになること。

［講義計画］

１．講義概要と受講上の注意
２．VB事始め
３．コマンドボタンとPRINT文の詳細
４．算術演算
５．キーボードからのデータの受け取り
６．判断分岐（その１）
７．判断分岐（その２）
８．繰り返し処理（その１）
９．繰り返し処理（その２）
１０．変数の配列

以上の内容は変更される場合もありうる。

［成績評価の方法］

出席率、宿題の提出率、レポートの成績、受講態度などによって総合的に評価する。

［参考文献］

未定。

開講時に指定する。

［教科書］

未定。

開講時に指定する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング (旧プログラミング論A)	０３ ０４	秋 学 期 秋 学 期	２単位 ２単位	**大 嶋　耕 一**

［講義概要・学習目標］

プログラミング言語にはさまざまなものがあり、適材適所で使用されている。本講義ではその中で最も初心者向きといわれるBASIC言語を学習する。

BASIC言語といえば、Windows環境ではVisual Basicが最も有名である。これは、JISで規定されているBASIC言語をMicrosoft社が独自に言語拡張し、オブジェクト指向という高度なプログラミング理論を取り入れ、Windows環境に適合させたものである。とはいえ、プログラミング環境を工夫してあるため、オブジェクト指向を特に意識せずにプログラミングができるようになっている。その反面、初心者にはプログラムの全体像がつかみにくいという欠点をともなう。

パソコンではWindowsが大勢を占める現状を勘案し、本講義ではVisual Basicを用いることにするが、以上の点を考慮し、Windowsのインターフェースの設計は必要最小限にとどめ、BASIC言語の基本的なコマンドを用いた問題解決手法の学習に重点を置くことにする。

授業の進め方は「自修方式」を基本とする。すなわち、一斉方式の講義は必要最小限にとどめ、各自がテキストを読み進めつつ、実際にコンピュータを使って確かめながら学習し、個別に指導を行う方式をとる。

［講義計画］

第１回　ガイダンス、BASIC言語とは

第２回以後　（自修方式）

必須修得内容（進度順）

以下は、全員が学習し、指示された提出物を提出する。

１．Visual Basicによるプログラム作成の実例
　　処理系の起動・終了、簡単なインターフェースの設計
２．書式、変数と代入ステートメント、オブジェクトとプロパティ
３．文字列、式の表現（演算子・関数）、ステートメントの実行順序
４．プログラムのコンパイル、実行可能プログラムとショートカット
５．プログラムと制御構造
　　選択構造（ifステートメント）、反復構造（whileステートメント）

追加修得内容（以下は、進度に応じて追加的に学習する）

６．サブプログラム、実行時エラーへの対処（エラーハンドリング）
７．例題：ファイル入出力

［成績評価の方法］

出席　３０％、レポート・提出物　７０％　で評価する。

［教科書］

市販の教科書は使用せず、プリントでテキストを配布する。

［参考文献］

第１回の授業時に紹介する。

経営 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
会計学原理		春学期集中	４ 単位	中　村　恒　彦

［講義概要・学習目標］

「会計学原理」では、会計理論がどのように現在に至るまでに形成されてきたのかについて学習する。具体的には、20世紀初頭におけるドイツとアメリカでの近代会計理論の生成からアメリカの財務会計審議会(FASB)や国際会計基準委員会(IASC/IASB)の概念的フレームワークに至るまでの会計理論の系譜をたどる。これにあわせて、わが国の制度会計にかかわる原理的解説も行うこととする。なお、講義計画は、①会計と会計理論の歴史、②わが国の制度会計、③国際会計の三部から構成することにする。

［講義計画］

第一部　会計と会計理論の歴史
　簿記から会計へ —個人企業・組合企業から株式会社へ—
　近代会計理論の生成　—ドイツおよびアメリカ—
　現代の会計理論　—ＡＳＯＢＡＴとＦＡＳＢの財務会計の諸概念（ＳＦＡＣ）—
第二部　わが国の制度会計
　わが国の制度会計の構造
　各会計基準の原理的解説
第三部　国際会計
　会計基準の国際的調和化
　国際会計基準の概念的フレームワーク

［成績評価の方法］

前期テストおよび後期テストで総合的に評価する

［教科書］

興津裕康編著［1998］『財務会計システムの研究』税務経理協会

［参考文献］

古賀智敏［1999］『会計基準のグローバル化戦略』森山書店
徐龍達［1997］『ドイツ会計学』改訂版増補版 KBS社
武田隆二［2002］『最新財務諸表論』中央経済社
津森常弘［2002］『会計基準形成の論理』森山書店
中野常男［1992］『会計理論生成史』中央経済社
山地秀俊［1994］『情報公開制度としての現代会計』同文舘

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
財務諸表論		秋学期集中	4単位	全（チョン）　在（ジェ）　紋（ムン）

［講義概要・学習目標］

企業はその社会的性格のゆえに、自己の財政状態および経営成績を世間に公表する責任をもっている。貸借対照表や損益計算書をはじめとする財務諸表は、そのために作成された、いわば企業の〈証言〉である。企業にとってこわいのは、虚偽の証言が発覚したときに受ける懲罰だけである。だから、ウソがばれないように巧妙に偽証している可能性も大いにある。財務諸表はいったい、どこまでが真実で、どこまでが企業エゴの発露なのか。それを見分ける目を養う。

〈学習目標〉

①商業簿記の学習内容を基礎にして、3年時以降に履修する経営学部専門諸科目の内容が理解できるよう、財務会計における損益計算論・貸借対照表論のポイントを理解する。

②「企業の言語」としての〈会計〉の特性を理解する。

［講義計画］

①オリエンテーション（1回）
②計算書類論（AV使用）（1回）
③会計とは何か（1回）
④会計の仕組み（1回）
⑤財務諸表の作成原理（1回）
⑥棚卸資産の会計（2回）
⑦固定資産の会計（2回）
⑧金融資産の会計（1回）
⑨中間試験・解説（2回）
⑩負債の会計（2回）
⑪資本の会計（2回）
⑫収益・費用・税金の会計（2回）
⑬連結財務諸表（1回）
⑭企業の評価（経営分析）（1回）
⑮会計言語論（3回）
⑯国際会計論（2回）

［成績評価の方法］

原則として、学期中間試験と学期末試験との総合点で評価する。また、学期中にレポートを課した場合、充実した内容の提出者には加点評価する。なお、日本商工会議所簿記検定試験2級・1級合格者にも、別途加点評価する。

［教科書］

永野則雄（著）　『ケースブック　会計学』　新世社

［参考文献］

①武田隆二（著）　『会計学一般教程』（第2版）　中央経済社

②飯野利夫（著）　『財務会計論』（三訂版）　同文舘

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
株式会社会計　（旧簿記Ⅱ）		秋学期	2単位	近　藤　健　司

［講義概要・学習目標］

本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、中級程度の商業簿記（株式会社の簿記）を講義する。

簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要なため、毎時間、練習問題を解く学習を中心に授業を進める。

財務諸表論学習のための基礎知識や公認会計士・税理士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得を目標とするので、受身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

［講義計画］

1、簿記一巡の取引と財務諸表
2、現金預金取引
3、有価証券取引
4、債権債務取引
5、手形取引
6、引当金取引
7、特殊商品売買取引
8、固定資産取引
9、株式会社会計
10、決算整理・財務諸表の作成
11、本支店会計・合併財務諸表の作成
12、帳簿組織・仕訳帳の分割・伝票式会計

［成績評価の方法］

定期考査の成績に出席状況、提出物等を加味して、総合的に評価する。

［教科書］

新井清光・渡部裕亘（編著）「新検定簿記講義2級商業簿記（平成15年版）」（中央経済社）

新井清光・渡部裕亘（編著）「新検定定簿記ワークブック2級商業簿記」（中央経済社）

［参考文献］

武田隆二著　「簿記一般教程　（第5版）」　（中央経済社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
工業簿記 （旧簿記Ⅱ）		秋学期	2 単位	近　藤　健　司

［講義概要・学習目標］

本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、製造業の簿記（初歩の原価計算を含む）を講義する。

簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要なため、毎時間練習問題を解く学習を中心に、つとめて実践的に授業を進めたい。

原価計算論学習のための基礎知識や公認会計士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得に役立つと思うので、受身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

［講義計画］

1、工業簿記の構造
2、材料費・労務費・経費の計算
3、製造間接費計算
4、部門費計算
5、個別原価計算
6、総合原価計算
7、標準原価計算
8　直接原価計算
9、工場会計の独立

［成績評価の方法］

定期考査の成績に出席状況、提出物等を加味して、総合的に評価する。

［教科書］

岡本　清・広本敏朗（編著）「新検定簿記講義２級工業簿記（平成１５年版）」（中央経済社）

岡本　清・広本敏朗（編著）「新検定簿記ワークブック２級工業簿記」（中央経済社）

［参考文献］

小林哲夫・伊藤　博（共著）「最新工業簿記」　（実教出版）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
原価計算システム（旧原価計算論）		秋学期	2単位	小　林　哲　夫

［講義概要・学習目標］

製品原価計算の基礎的な概念や手続について学習する。
基礎的概念を通じて原価計算システムの基本構造を理解するとともに、計算演習に多くの時間をかけて、計算能力を身につけるようにする。

［講義計画］

おおむね次の順序で講義を行う。
(1)原価の基礎概念
(2)原価計算システム（原価計算制度）の役割
(3)実際総合（全部）原価計算の基本手続
(4)直接原価計算の意義と手続
(5)個別原価計算の手続
(6)部門別原価計算の手続
(7)標準原価計算の意義と手続

［成績評価の方法］

期末テストも行うが、常時の計算演習の参加を重視する。

［教科書］

授業中に資料を配付する。

［参考文献］

小林哲夫『原価計算：理論と計算例』（中央経済社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コスト・マネジメント （旧原価計算論）		秋学期	２単位	小　林　哲　夫

［講義概要・学習目標］

多品種小ロット生産、ＪＩＴないしリーンな生産方式、ＦＡ化、グローバル化などに対応する現代経営を取り巻く原価計算の課題と動向を背景としながら、原価計算及びコスト・マネジメントについて講義を行います。

原価企画、ライフサイクル・コスティング、品質コストのマネジメントなど、トピカルな問題についてもできるだけ時間を割いて講義を進めていきたいと思っています。

現代経営における原価計算及びコスト・マネジメントについての知識を身につけることが学習の目標です。

［講義計画］

(1)現代経営を取り巻くコスト・マネジメントの課題
(2)標準原価管理の問題点
(3)ＡＢＣ（活動基準原価計算）意義
(4)戦略的コスト・マネジメントへのアプローチ
(5)品質原価計算とライフサイクル・コスティング
(6)原価企画

［成績評価の方法］

期末テストと中間レポートの提出

［教科書］

小林哲夫『現代原価計算論：戦略的コスト・マネジメントへのアプローチ』（中央経済社）

［参考文献］

日本会計研究学会『原価企画研究の課題』（森山書店）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
管理会計論		春学期集中	４単位	清水　信匡

［講義概要］

企業は様々な経営管理の手段を有しているが、その中核に計画とコントロールシステムがあります。企業における計画とコントロールの主要部分を管理会計が担当しています。したがって、本講義では、まず経営管理活動における計画とコントロールの意義を説明します。次に、計画とコントロールがどのように管理会計技法によって遂行されているのかを説明します。

［学習目標］

①計画とコントロールの理解
②管理会計の主要な技法の理解

［講義計画］

1　経営管理プロセスにおける管理会計の役割
2　計画とコントロール
3　短期利益計画
4　予算管理
5　日常業務の管理会計
6　事業部制会計

［成績評価の方法］

試験の成績で基本的に評価する。

［教科書］

門田安弘著　『管理会計－戦略的ファイナンスと分権的組織』
税務経理協会　2001年

生協にて一括して購入し販売する。

［参考文献］

加登豊『管理会計入門』（日経文庫Ｃ４１）日本経済新聞社1999年
伊丹敬之・加護野忠夫著『ゼミナール経営学入門（改訂版）』
日本経済新聞社1993年

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営分析		春学期集中	4単位	河合　隆治

［講義概要・学習目標］

経営分析は、どの会社が強いのか、または会社が弱いのかについて、貸借対照表、損益計算書といった会計情報を使って分析する分野です。
このような分析は、みなさんが将来、会社に勤めるとき、株式を買うとき、会計を専門とする仕事に就く時に役立ちます。
本講義では、経営分析の基本的な考え方や、計算方法を理解することが目標です。経営分析ができるようになるためには、基本的な考え方を理解するだけではなく、実際に分析できる必要がありますので、講義の途中で受講生のみなさんに簡単な計算をして頂きます。
本講義を受ける上で、経営学部の必修科目である「商業簿記」の知識を習得済み、もしくは並行して習得していることが望ましいです。しかし、本講義を理解する上で必要な簿記、会計学の知識は、その場で簡潔に説明しますので、これらの知識を持っていなくても経営分析を理解することは可能です。

［講義計画］

本講義は、大まかには以下のように進めます。

1　経営分析とは何か
2　貸借対照表とその分析
3　損益計算書とその分析
4　貸借対照表と損益計算書
5　利益処分計算書とその分析
6　キャッシュフロー計算書とその分析

講義の進度は講義の途中で行う計算演習や受講者の理解度を見て、調整します。計算演習を行いますので、受講者は毎週計算機（電卓）を持参して下さい。
詳細については初回の講義に説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

［成績評価の方法］

期末試験を中心にして評価を行います。

［教科書］

アンダーセン ビジネススクール編（後藤芳浩編）『財務諸表分析』エクスメディア、2002年。

［参考文献］

・桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社、1996年。
・毎回必要な補助資料（プリント）を配布します。
・その他の参考文献については、講義の進行に従って指示します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
税務会計		春学期集中	4 単位	金　光　明　雄

［講義概要・学習目標］

税務会計は、企業の活動内容を記録し、それに基づいて企業（個人企業と法人企業の両方を含む）の課税所得金額と税額を計算して、その結果を報告する過程です。税務会計によって作成される課税所得金額や税額に関する情報は、申告納税制度のもとでまず税務当局に対して報告され、さらに合理的な租税負担を可能にする有効なタックス・プラニングのための情報として企業の経営者に対しても報告されます。とくにバブル経済の崩壊以降、長引く経済不況のために、それまでの売上拡大による企業成長が困難な状況となった現在においては、できるだけ企業の納税額を節約（「脱税」とは違う）して税引後キャッシュ・フローを増やすことが、企業価値最大化の観点から注目されています。このような意味においても、税務会計の果たす役割は重要なものとなってきています。
この講義では、主に法人企業を対象にして、税務当局や経営者に対して報告される課税所得金額や税額の計算の仕組みとルールを、財務会計との相違点にも触れながら解説します。そして最終的には、税務会計の基本的な枠組みが理解できるようになることを目指します。

［講義計画］

概ね以下のような内容にそって、講義を進めていく予定です。またこの講義では、理解を深めるために、適宜、計算問題による演習を予定しています。

1. 法人所得課税制度の概要
2. 課税所得計算の構造
3. 益金計算・損金計算の原則と特例
4. 棚卸資産
5. 有価証券
6. 固定資産
7. 特別償却・圧縮記帳
8. 繰延資産・引当金
9. 給与・租税公課
10. 寄附金・交際費
11. 受取配当金
12. 企業組織再編税制
13. 企業集団税制
14. 税効果会計

なお、この講義の具体的な進め方や成績評価の方法については初回の講義（オリエンテーション）で説明しますので、受講希望者は必ず初回の講義に出席してください。

［成績評価の方法］

出席状況、提出レポート、期末試験などを総合して評価します。

［教科書］

大蔵財務協会『平成 14 年度版　私たちの税金』大蔵財務協会，2002 年。
その他、適宜、資料を配布します。

［参考文献］

武田隆二『法人税法精説（平成 14 年版）』森山書店，2002 年。
北條恒一『やさしい税務会計』大蔵財務協会，2002 年。
その他の参考文献については、必要に応じて講義のなかで指示します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
監査論		秋学期集中	４単位	朴　大栄

［講義概要・学習目標］

バブル経済の崩壊とともに、長期にわたる不況が数多くの企業倒産を引き起こしている。倒産企業においては、経営者による不正や粉飾財務諸表の作成が判明することもある。監査人が適正意見を表明した財務諸表の発行会社が、その直後に倒産することもある。このような状況のもと、監査の中身に対する社会的関心も高まり、2002年１月には監査基準の大幅な改訂も実施された。

監査論は、企業の独断専行を抑え、一般社会との協調を計らせるための会計学、経営学等の応用理論に属する。今年度の講義は、このような社会背景のもと、監査の基礎知識のみならず、現行の監査制度の問題点などにも触れていくことにする。

本講義においては、企業と外部利害関係者とくに投資家との間に介在する証券取引法監査ないし会計監査を中心に、監査に関する基礎知識の理解を目的とする。

［講義計画］

講義の順序を示す。

第１章 監査とは（CPA業務）
第２章 監査論の考え方
第３章 監査の必要性
第４章 監査の限界と補強方法
第５章 監査の歴史的発展
第６章 監査目的と不正
第７章 監査基準の意義
第８章 監査人の資格と条件
第９章 監査の実施
第10章 監査計画と監査証拠
第11章 リスク・アプローチ
第12章 監査意見
第13章 監査報告書と適正性
第14章 ゴーイング・コンサーン
第15章 追記情報

［成績評価の方法］

定期試験の成績と出席状況を勘案して評価する。

［教科書］

加藤恭彦・友杉芳正・津田秀雄編著
『監査論講義』　中央経済社

［参考文献］

鳥羽至英著　『監査基準の基礎』　白桃書房
山浦久司著　『会計監査論』　中央経済社

その他、講義中に適宜指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国際会計論　（旧国際会計論）		春学期	２単位	柴　理梨亜

［講義概要・学習目標］

国際化、グローバル化がますます進む現在の環境では当然、会計もその影響を受けている。日本でも国際会計基準が重要視されるようになり、日本の会計基準との調和化問題も大きな課題となっている。

本講義ではグローバル・スタンダードとなった国際会計基準について学ぶとともに、実際の英文財務諸表を利用しながら多くの英語の会計専門用語を身につけ、英文財務諸表の内容を理解できるようになるのが目的である。

［講義計画］

１．国際会計基準の歩み
２．国際会計基準の制定までの流れなど
３．国際会計基準のフレームワークと日本の実情
４．グローバル・スタンダードの連結財務諸表
５．金融商品と時価会計
６．税効果会計
７．年金会計
８．有形固定資産とリース会計
９．損益計算書の役割
１０．ディスクロージャー

［成績評価の方法］

出席、平常店とテストの結果を総合的に評価する。

［教科書］

西川郁生（監修）ＪＵＳＣＰＡ国際会計基準専門部会（著）、「よくわかる国際会計基準」第２版、中央経済者

［参考文献］

１．長谷川重男、萩　茂生、川本修司（著）「日本の財務諸表が変わる－会計の国際化の進展」（中央経済社）

２．青山監査法人プライス　ウォーターハウス「国際会計基準ハンドブック」新版　（東洋経済新報社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
連結会計論　（旧国際会計論）		秋学期	2単位	柴　理梨亜

［講義概要・学習目標］

単独企業の財務諸表に代わってグループ企業の連結財務諸表が主役になった今、本講義ではその連結財務諸表について学びます。例えば、はなぜそのような連結財務諸表が必要なのか、その制度とはなにを目的としているのか、その財務諸表の構成は、などを理解するのが目的である。

［講義計画］

1．証券取引法に基づく情報開示制度
2．連結決算制度
3．連結貸借対照表
4．連結損益計算書
5．連結剰余金計算書
6．連結キャッシュ・フロー計算書
7．連結財務諸表の注記事項
8．連結の範囲と基準

［成績評価の方法］
出席、平常店と期末テストを総合的に評価する

［教科書］
新日本監査法人（著）「図解早わかり　連結決算書入門」、ＢＳＩエデュケーション

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コンピュータ会計 （旧会計学特講（コンピュータ会計））		春学期	2 単位	安　井　一　浩

［講義概要・学習目標］

現在では経理作業にコンピュータは欠かせないものとなっています。この講義では経理用ソフト「弥生会計」を使用してパソコンによる経理実務を学習します。また単に操作だけではなく、その背景にある簿記の理論も学習します。また必要に応じて表計算ソフト等の活用方法も説明します。日常的な経理実務ができるようになることを目標とします。

［講義計画］

経理用ソフトのインストールから各種設定、現金出納帳、預金出納帳、売掛帳の記帳方法、伝票の作成方法を順次説明し実際に作成してもらいます。最終的には基礎的なパターンの決算書の作成までしてもらいます。また講義の中で適宜、複式簿記の原理、帳簿組織の仕組みを説明します。なお講義中に例題を使った演習も取り入れる予定です。

［成績評価の方法］

出席回数、講義中の演習及び考査を総合的に考慮して評価します。

［教科書］

「弥生会計」の操作マニュアル
平林亮子著「マドンナ会計士が教える一番かんたんな　会計の本」（すばる舎）
ISBN4－88399－198－9 C2034

［参考文献］

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
税法 I （旧税法）		春学期	2 単位	中田信正

［講義概要・学習目標］

（講義概要）
税法のうち、身近な問題を対象に、個人の所得に課せられる所得税の仕組みを講義する。日本の税制を全般的に述べた後、所得税を取り上げ、その計算構造を体系的かつ具体的に解説する。所得の種類およびそれぞれの所得の計算方法、所得控除、税額控除を説明するとともに、申告・納税等の手続きにもふれる。理解を深めるため、計算および文章問題の練習を重視する。

（学習目標）
所得税の基本的仕組みを、体系的に理解する。

［講義計画］

1 日本の税制
2 所得税の納税義務者
3 非課税所得
4 事業所得
5 利子所得
6 配当所得
7 不動産所得
8 給与所得
9 退職所得
10 譲渡所得
11 山林所得
12 一時所得
13 雑所得
14 所得の総合課税と分離課税
15 所得控除
16 税額の計算
17 源泉徴収・年末調整

［成績評価の方法］

期末試験の成績によって評価する。試験は計算問題と論述問題を出題する。

［参考文献］

日本税理士会連合会・中央経済社〔編〕『所得税法規集』（中央経済社）

［教科書］

石井敏彦『平成14年度版　私たちの所得税』（大蔵財務協会）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
税法 II （旧税法）		秋学期	2 単位	中田信正

［講義概要・学習目標］

（講義概要）
身近な税法として、相続税および贈与税の概要を講義する。まず、相続税の意義を明らかにするとともに、民法の相続に関する基本規定を説明する。ついで、相続税の納税義務者、課税財産および計算手続きを体系的に解説する。特に、重要な相続財産の評価の仕組みについても取り上げたい。
相続税の学習の後に、贈与税を学ぶ。贈与税は、財産の贈与を受けた個人にかかる税金であり、相続税の補完税の役割を持つ。講義では、相続税との関連を重視して贈与税の概要を解説したい。
理解を深めるため、計算および文章問題の練習を重視する。

（学習目標）
相続税および贈与税の基本的な仕組みを、体系的に理解する。

［講義計画］

I 相続税
1 相続税の意義
2 民法の相続に関する基本規定
3 相続税の納税義務者
4 相続税の計算の仕組み
5 相続財産の評価

II 贈与税
1 贈与税の意義
2 贈与税の計算の仕組み
3 贈与財産の評価

［成績評価の方法］

期末試験の成績によって評価する。試験は計算問題と論述問題を出題する。

［参考文献］

日本税理士会連合会・中央経済社〔編〕『相続税法規通達集』（中央経済社）

［教科書］

『平成15年度版　やさしい相続税』（大蔵財務協会）

後半に使用する贈与税については別途指示する。